



平成27年度活動報告会
(平成28年 5 月 26日)



熊本地震被害調査報告会
(平成28年 4 月 22日)



糸魚川市駅北大火の調査報告会
(平成29年 1 月 20日)



国土交通省登録資格
「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」
認定報告会 (平成29年 3 月 8日)



社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座
【前期】 平成28年 9 月 26日～30日
【中期】 平成28年10月 6 日，10月14日
【後期】 平成28年10月17日～21日



防災セミナー in 西予市
(平成28年6月26日)



防災士養成講座
【第1回】平成28年8月27日～28日
【第2回】平成28年8月29日～30日
【第3回】平成28年10月13日～14日
【第4回】平成28年10月15日～16日



編集ワークショップ
(平成28年5月24日)



第6回アーバンデザイン研究会
(平成28年8月6日)



アーバンデザインスクール
「みつはま『私のまちの写真展』」
(平成28年10月26日～30日)



アーバンデザインスクール
路地裏映画館 in 柳井町商店街
(平成28年11月3日)

序 文

愛媛大学防災情報研究センターが平成 18 年 4 月 1 日に設立されて以来、ちょうど 10 年が経過しました。この 10 年間の間には、今後も日本の災害史に残るような大きな災害が発生しました。東日本大震災（平成 23 年 1 月）では東北の太平洋沿岸を巨大な津波が襲い、死者・行方不明者併せて 2 万人に近い方が犠牲となりました。同年 9 月には台風 12 号による紀伊水害が発生しましたし、平成 25 年には台風 26 号によって伊豆大島で土石流が発生し 39 人の死者行方不明者が出ました。平成 26 年 8 月には広島市での土石流災害により死者 74 人・家屋の全半壊 255 軒となっています。平成 27 年には鬼怒川が決壊し、平成 28 年には東北や北海道に台風が襲来するなど、近年経験しなかったような気象災害が頻発化しています。この他にも、平成 26 年の山梨豪雪、同年の御嶽山噴火（登山客など 57 人が犠牲）、平成 28 年の熊本地震など、深刻な災害が多く発生しています。来る南海トラフ巨大地震は、四国に巨大津波と強い地震動をもたらすことが予想されており警戒が必要です。

また我々が晒されているのは自然災害だけではありません。経済成長とともに道路を中心とした多くの社会基盤の整備がなされてきましたが、近年これらの構造物の老朽化が深刻な状況となっています。たとえば、平成 22 年には笹子トンネルの天井板が落下し、走行していた車両が巻き込まれて 9 名の方が犠牲になりました。アメリカでも今から 10 年ほど前に高速道路の橋が崩落し 15 名の死者・行方不明者がでる惨事が起きています。私たちの身の回りにある橋やトンネルでも同様のことが起きる可能性がありますし、上下水道や港湾施設、河川堤防なども同じように老朽化が進んでいます。地震や豪雨などの発生時にこれらの構造物が壊れやすくなることも考えられ、そうすると被害が大きくなったり、緊急支援のルートが使えなくなったり、その後の復旧・復興を遅らせることにもなります。

愛媛大学防災情報研究センターでは、予想される様々な災害から住民の生命と財産を守るために、行政や地域と連携した極めて実践的な防災研究に取り組んでいます。平成 21 年 10 月から平成 26 年 3 月まで四国建設弘済会による「東南海・南海地震研究部門」を、平成 26 年 4 月から松山市(松山市都市再生協議会)による「松山アーバンデザイン研究部門」を設置しました。これらの寄附講座の活動により、愛媛県並びに四国地域の南海トラフ巨大地震への対応や松山市の中心市街地や道後温泉の活性化への取り組みに大いなる成果を上げています。また、防災に関わる人材育成への取り組みとしては以下のようなプログラムを開講しています。まず、平成 25 年度から文部科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」に「地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計」が採択され、毎年 20 名を超えるメンテナンスエキスパート技術者(ME)を輩出しています。それとともに、平成 26 年度から地域防災力向上のリーダーの育成にも組織的に取り組んでおり、松山市消防局と連携した防災士養成講座では、毎年 400 名の防災士を育成しています。また、松山市内 4 大学の学生を対象とした実践的學生防災リーダー育成プログラムでは、平成 27 年度から毎年 200 名の学生防災士を養成しています。さらに、アジア圏の災害調査や防災研究連携にも力を入れてきました。2015 年に発生したネパール・ゴルカ地震の被害調査を精力的に進め、この調査研究推進のために、関係機関・諸氏から多くの賛助寄付金を頂いています。その寄付金によりカトマンズ市に地震復興に向けた学術拠点である「愛媛大学ネパール地震復興デザインセンター」を開設しています。

以上、見てきたように、日本は大規模自然災害の多発期にあります。そのため、今まで以上に防災への真剣な取り組みが求められます。愛媛大学防災情報研究センターも微力ながら地域防災力向上のために活動していきます。本報告書に昨年 1 年間の活動成果をまと

めておりますので、本センターの活動の理解を深める一助となれば幸いです。災害に立ち向かうためには、多くの機関や個人の力の結集が必要です。皆様の熱い支援と協力をお願いします。

2017 年 5 月 26 日

愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

愛媛大学防災情報研究センター年報 目次

序文

目次

1. 研究組織及び研究スタッフ	1
2. 活動状況	
2.1 平成 27 年度活動報告会	8
2.2 災害現地調査・調査報告会	10
2.3 防災セミナー	13
2.4 四国防災八十八話研究会	14
2.5 アーバンデザイン研究部門	15
2.6 防災士養成講座	24
2.7 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座	26
2.8 その他の講演会等	32
2.9 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）	41
3. センターが受け入れた研究活動	42
4. センター教員による研究・地域貢献活動	45
5. 管理・運営	
5.1 運営委員会議事録	73
5.2 外部評価委員会議事録	77
6. 規程等	79

1. 研究組織および研究スタッフ

センター長，副センター長のもとに，6つの研究部門（災害救急医療・ケア研究部門，地域防災システム研究部門，社会基盤整備部門，アジア・地域防災情報ネットワーク部門，南海トラフ巨大地震研究部門，アーバンデザイン研究部門）を置く。下記に，平成28年度の研究スタッフを示す。センター長，副センター長の他，センター所属の教員が22名，客員教授・准教授が6名，客員研究員が5名，並びにセンター活動を支援していただく協力教員6名で構成されている。

センター長

氏 名	矢田部 龍一 [YATABE Ryuichi]
所 属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職	教授
専 門	地盤工学
最 終 学 歴	1979.3 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

副センター長

氏 名	吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所 属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職	教授
専 門	交通工学
最 終 学 歴	1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏 名	二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所 属	防災情報研究センター
役 職	准教授
専 門	都市防災計画，地震火災シミュレータ，避難シミュレータ，救急情報工学，土木計画学， 中山間地防災計画，住民参加，合意形成
最 終 学 歴	1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

＜災害救急医療・ケア研究部門＞

地域の関係機関との連携を考慮した災害発生時の救急医療・ヘルスケア体制及び搬送支援体制の構築・情報共有に関する調査・研究を行い、心的ケアを含む実践的な災害医療の教材を開発する。

部門長

氏 名 相引 眞幸 [AIBIKI Mayuki]
所 属 大学院医学系研究科医学専攻
役 職 教授, 附属病院副院長 (医療再生・災害危機管理担当)
専 門 救急医学, 重症患者管理学
最 終 学 歴 1978.3 金沢医科大学医学部医学科 卒業

氏 名 木村 映善 [KIMURA Eizen]
所 属 大学院医学系研究科医学専攻
役 職 准教授
専 門 医療情報学, 医療社会学, 看護情報学, 医用工学
最 終 学 歴 2003.3 愛媛大学大学院医学研究科生体機能博士課程 修了

氏 名 加藤 匡宏 [KATO Tadahiro]
所 属 大学院教育学研究科学校臨床心理専攻
役 職 准教授
専 門 産業保健領域における人間工学の視点からみた労働安全器具の開発および安全, 安心町づくり
最 終 学 歴 1990.3 広島大学大学院医学系研究科社会医学系博士課程 修了

＜地域防災システム研究部門＞

自然災害発生メカニズムや対策技術を研究し、発生した災害実態や気象・地質・構造物などの地域特性を調査する。それらの調査・研究を通して得られた知見・知識を蓄積する。

部門長

氏 名 松尾 芳雄 [MATSUO Yoshio]
所 属 農学部生物資源学科
役 職 教授
専 門 地域計画情報学・農村計画学
最 終 学 歴 1980.3 京都大学大学院農学研究科農業工学専攻後期博士課程研究指導認定

氏 名 小林 範之 [KOBAYASHI Noriyuki]
所 属 農学部生物資源学科
役 職 教授
専 門 地盤工学
最 終 学 歴 1991.3 京都大学大学院農学研究科農業工学修士課程 修了

＜社会基盤整備部門＞

国土保全という視点に加え、災害に強い都市計画、避難支援技術、復旧・事業継続のためのリスク評価と機能維持計画など防災・減災という視点や環境・景観保全の視点からの社会資本整備技術を開発・展開する。

部門長

氏 名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 交通工学
最 終 学 歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏 名 氏家 勲 [UJIKE Isao]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 コンクリート工学
最 終 学 歴 1981.3 広島大学工学部土木工学課程 修了

氏 名 山下 祐一 [YAMASHITA Yuichi]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 防災工学
最 終 学 歴 1999.3 愛媛大学大学院理工学研究科博士課程 修了

氏 名 森脇 亮 [MORIWAKI Ryo]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 気象学・水文学
最 終 学 歴 1996.3 東京工業大学工学部土木工学科 卒業

氏 名 門田 章宏 [KADOTA Akihiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 河川工学
最 終 学 歴 1997.3 京都大学大学院工学研究科博士課程環境地球工学専攻 単位取得認定退学

氏 名 全 邦釘 [CHUN Pang-jol]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 橋梁工学・維持管理工学・構造力学・鋼構造学・画像解析学

最 終 学 歴 2010.5 Wayne State University, Graduate School, Department of Civil and Environmental Engineering 博士課程 修了

＜アジア・地域防災情報ネットワーク部門＞

地域の視点からの防災・災害対応に関する自然科学・人文社会面の教材の開発，災害時のライフラインや医療に関する基盤情報ネットワーク構築に関する調査・研究を行う。その成果を用いて地域の教育・啓蒙を行い，さらにアジア各地域に重点的に展開する。

部門長

氏 名 榊原 正幸 [SAKAKIBARA Masayuki]
所 属 社会共創学部
役 職 教授
専 門 地球環境学，地質学，岩石学，応用地球科学
最 終 学 歴 1987.9 北海道大学大学院理学研究科地質学鉱物学博士後期課程 修了

氏 名 都築 伸二 [TSUZUKI Shinji]
所 属 大学院理工学研究科電子情報工学専攻通信システム工学
役 職 准教授
専 門 通信工学
最 終 学 歴 1985.3 愛媛大学大学院工学研究科修士課程 修了

氏 名 二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所 属 防災情報研究センター
役 職 准教授
専 門 都市防災計画，地震火災シミュレータ，避難シミュレータ，救急情報工学，土木計画学，
中山間地防災計画，住民参加，合意形成
最 終 学 歴 1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

氏 名 バンダリ ネットラ プラカシュ [BHANDARY Netra Prakash]
所 属 社会共創学部
役 職 准教授
専 門 地盤防災
最 終 学 歴 2003.3 愛媛大学大学院理工学研究科生産工学博士後期課程 修了

＜南海トラフ巨大地震研究部門＞

南海トラフ巨大地震に備えて、防災教育、避難行動、業務継続、防災 GIS、自主防災活動に関する研究を重点的に展開する。

氏 名 岡村 未対 [OKAMURA Mitsu]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 地盤工学
最 終 学 歴 1993.3 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学博士課程 修了

氏 名 森 伸一郎 [MORI Shinichiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 地震工学，地震地盤工学，防災工学
最 終 学 歴 1980.3 京都大学工学部土木工学科 卒業

＜アーバンデザイン研究部門＞

公・民・学が連携して、都市デザインとまちづくりに関する調査研究から実践，さらには学習・教育を行い，まちづくりの担い手を育成する。

部門長

氏 名 曲田 清維 [MAGATA Kiyotada]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 住居学，建築計画，都市計画
最 終 学 歴 1978 大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程 中退

氏 名 松本 啓治 [MATSUMOTO Keiji]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 まちづくり
最 終 学 歴 1972.3 愛媛大学農学部農業工学科 卒業

氏 名 千代田 憲子 [CHIYODA Noriko]
所 属 教育学部
役 職 教授
専 門 デザイン，パブリックデザイン(街路景観)，テキスタイル造形
最 終 学 歴 2003.3 九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科生活環境専攻博士後期課程 修了

氏 名 松村 暢彦 [MATSUMURA Nobuhiko]
所 属 社会共創学部
役 職 教授
専 門 地域デザイン
最終学歴 1995.3 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程 中退

氏 名 羽鳥 剛史 [HATORI Tsuyoshi]
所 属 社会共創学部
役 職 准教授
専 門 社会マネジメント
最終学歴 2006.3 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻博士課程 修了

氏 名 片岡 由香 [KATAOKA Yuka]
所 属 社会共創学部
役 職 助教
専 門 景観デザイン
最終学歴 2013.3 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期課程 修了

氏 名 小野 悠 [ONO Hruka]
所 属 防災情報研究センター
役 職 助教
専 門 都市計画
最終学歴 2016.3 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程 修了

【客員教授】

氏 名 高橋 治郎 [TAKAHASHI Jiro]
所 属 防災情報研究センター 教授
専 門 構造地質, 防災地質

氏 名 羽藤 英二 [HATO Eiji]
所 属 東京大学大学院工学研究科 教授
専 門 交通工学, 都市空間工学, 都市交通計画, 風景づくり

氏 名 鳥居 謙一 [TORII Kenichi]
所 属 国立研究開発法人土木研究所 研究調整監
専 門 海岸工学, 防災工学

氏 名 右城 猛 [USHIRO Takeshi]
所 属 株式会社第一コンサルタンツ 代表取締役社長
専 門 擁壁設計, 落石対策

氏 名 MADHAV Kumar Nepal
所 属 ネパール制憲議会議員 憲法策定委員会委員長
専 門 ヒマラヤ環境学, 開発政治学

【客員准教授】

氏 名 DAHAL Ranjan Kumar
所 属 理工学研究科 客員研究員 (ネパール トリブバン大学 講師)
専 門 応用地質学, 地すべり防災学

【客員研究員】

氏 名 TULADHAR Gangalal
所 属 ヒマラヤ保全会 会長
専 門 防災教育, ヒマラヤ環境学, 開発政治学

氏 名 石飛 直彦
所 属 復建調査設計株式会社 松山支店 技術課長
専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 泉谷 昇
所 属 NPO 法人いよココロザシ大学 理事長・学長
専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 西村 正
所 属 復建調査設計株式会社 経営管理本部 社会デザイン創発センター 理事
専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 浅子 佳英
所 属 タカバンスタジオ
専 門 まちづくり, 社会実験調査

【協力教員】

法 文 学 部 : 寺内 浩 (協力分野 : 古文書調査, 歴史研究)
理工学研究科 : 小林 真也 (協力分野 : 災害時の情報伝達)
理工学研究科 : 井内 國光 (協力分野 : 洪水被害, 水資源システム, 地球温暖化, 地盤沈下,
土壌・地盤・水汚染, 災害発生時の災害調査と情報提供)
理工学研究科 : 倉内 慎也 (協力分野 : 防災計画)
理工学研究科 : 木下 尚樹 (協力分野 : 土砂災害, 大規模崩壊)
理工学研究科 : 安原 英明 (協力分野 : 洪水災害, 水資源システム, 土砂災害, 地すべり,
大規模崩壊)

2. 活動状況

2.1 在ネパール日本国大使館特命全権大使小川正史氏の特別講演会及び防災情報研究センター 平成 27 年度活動報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 28 年 5 月 26 日（木）14 時 25 分から愛媛大学南加記念ホールにて、在ネパール日本国大使館特命全権大使小川正史氏の特別講演会及び防災情報研究センター平成 27 年度活動報告会を開催しました。二神准教授の司会のもと、100 名の方に参加いただき、矢田部センター長の開会挨拶で特別講演会及び報告会が始まりました。

特別講演会では、在ネパール日本国大使館特命全権大使小川氏から「ネパールの現状と日ネパール関係」と題して、ネパールの概況と日本との関係、地震に対する日本政府の対応及び現在のネパールの状況とその後のネパール情勢について説明がありました。ネパール地震対応で現地の陣頭指揮を執った小川氏からの貴重な話に参加者は熱心に聞き入っていました。

次いで、センター活動についてセンター教員らから報告がありました。

まず、矢田部センター長から「平成 27 年度の防災情報研究センターの取り組み概要」と題し、防災人材育成・まちづくり研究・防災技術開発等やネパール地震復興調査研究寄付金による調査復興活動について紹介しました。

引き続いて、松山市消防局地域防災課長金澤氏から「大学と連携した防災リーダー人材育成への取り組み」と題して、防災士養成講座や実践的學生防災リーダー育成プログラム及び防災士の資格を取得した学生から成る防災リーダークラブとの連携について説明しました。

二神准教授からは、「実践的學生リーダー育成プロジェクト」と題して、地域の様々な主体と連携し、学生が中心に地域の減災・防災力向上に貢献、卒業後も地域の防災リーダーとして活躍できる人材を育成しており、避難訓練や被災地でのボランティア活動等多岐にわたる取り組みについて報告しました。

また、森脇教授からは、「ME 講座を活用した防災技術者の育成」と題して、社会インフラのアセットマネジメントならびに長寿命化の観点に立って、俯瞰的に社会基盤の維持管理を行うことのできる技術者、また愛媛や四国の地域特性を踏まえ、地震や豪雨などの防災・減災にも精通した地域の核となる技術者を育成しているとの報告がありました。

最後に、曲田教授から「UDCM の取り組み－魅力あふれる松山のまちづくり－」と題して、まちづくりに関する政策・企画（研究・提案）、ハード事業（実証実験・事業創出・デザインマネジメント）、ソフト事業（交流・学習・情報発信）の多岐にわたる活動について紹介されました。

閉会にあたり吉井副センター長から報告会の振り返りと、これから益々重要となる、防災、まちづくりに必要な人材育成に取り組んでいくことが示され、閉会となりました。

日 時：平成 28 年 5 月 26 日(木) 14：25～17:00

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：100 名

プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

第 1 部 特別講演

「ネパールの現状と日ネパール関係」

在ネパール日本国大使館特命全権大使 小川 正史 氏

第 2 部 センター活動報告

「平成 27 年度の防災情報研究センターの取り組み概要」

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

「大学と連携した防災リーダー人材育成への取り組み」

松山市消防局地域防災課長 金澤 英雄 氏

「実践的學生防災リーダー育成プロジェクト」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透

「ME 講座を活用した防災技術者の育成」

愛媛大学大学院理工学研究科 教授 森脇 亮

「UDCM の取り組みー魅力あふれる松山のまちづくりー」

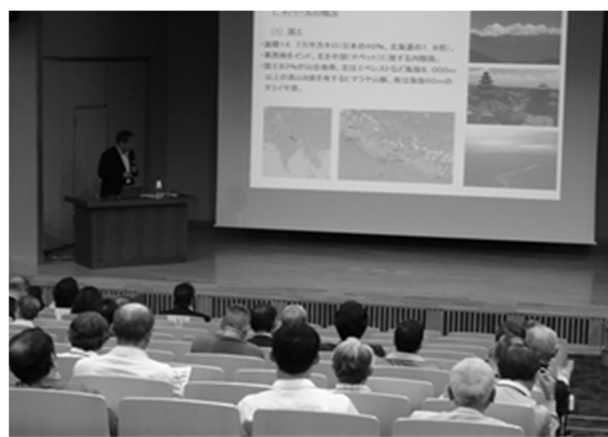
愛媛大学防災情報研究センター 教授 曲田 清維

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 吉井 稔雄



矢田部センター長の挨拶



在ネパール日本国大使館特命
全権大使 小川氏の特別講演

2.2 災害現地調査・調査報告会

2.2.1 熊本地震被害調査報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 28 年 4 月 22 日（金）13 時 00 分から愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室において、熊本地震被害調査報告会を開催しました。報告会には、国、県、市町、企業関係者、学生、一般市民ら約 100 名の参加者がありました。

講演では、矢田部センター長より「熊本地震被害の調査概要」と題して、調査団の行程や被害状況を報告し、日本の縮図のような地震災害に関して各種の調査が必要と訴えました。

続いて、森准教授から「熊本地震の機構と特徴的な被害」と題して、熊本県から大分県にかけての地震活動のメカニズムを解説、また詳細な被害状況（道路亀裂段差、建物倒壊、液状化等）を報告しました。

松山市消防局地域防災課の芝氏からは「救助・救援・避難所における対応」と題して、松山市も災害経験の少ない地域であるため、熊本地震を他人事とせず、震災時にも住民自らが実効性のある行動をとれるような政策を行う必要があると報告しました。

次に、一山コンサルタントの山下氏から「土木構造物と建物被害」と題して、熊本県南阿蘇村の東海大学農学部建物被害や熊本県益城町を中心とした被害状況を報告しました。今回の地震は愛媛県西部にも影響を与えたことと、震源が中央構造線の延長とも捉えられることから、四国地方でも安全安心に向けた準備が必要だと指摘しました。

また、ネトラ准教授からは、「熊本地震による斜面と道路被害について」と題して、大規模土砂崩壊の影響により崩落したと推定される阿蘇大橋の落橋やその周辺の斜面崩壊等について報告しました。

最後に、学生防災リーダークラブの来住さんから「大学生が見た熊本地震」と題して発表しました。調査に同行したきっかけが、1 か月前に熊本県を旅行した際に松山市と似ているところがあり、非常にいい街だと思ったことや、身近なところで地震が発生した場合は、学生防災リーダークラブの学生が地域防災の牽引役になる必要があると述べました。

主 催： 愛媛大学防災情報研究センター

後 援： 愛媛県地盤工学研究会

日 時： 平成 28 年 4 月 22 日 13：00～14：30

場 所： 愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者： 約 100 名

プログラム：

開会

「熊本地震被害の調査概要」 防災情報研究センター長 矢田部 龍一

「熊本地震の機構と特徴的な被害」

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎

「救助・救援・避難所における対応」 松山市消防局地域防災課 芝 大輔

「土木構造物・家屋被害」 一山コンサルタント 山下 祐一

(株) 芙蓉コンサルタント 須賀 幸一

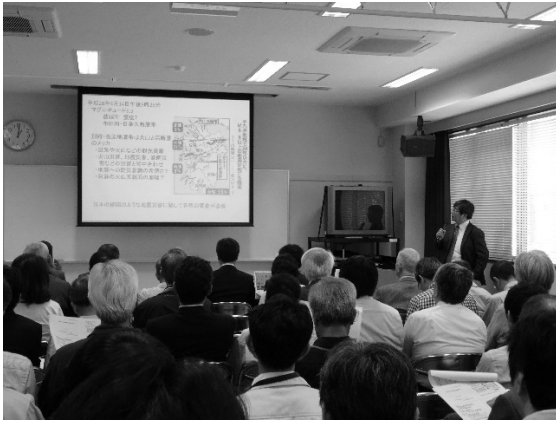
「熊本地震による斜面と道路被害について」

愛媛大学社会共創学部 准教授 ネットラ・P・バンダリ

「大学生が見た熊本地震」

愛媛大学学生防災リーダークラブ 来住 健太郎

閉会



矢田部センター長の講演



ネットラ P. 准教授の講演

2.2.2 糸魚川市駅北大火の調査報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 29 年 1 月 20 日（金）13 時 00 分から愛媛大学社会連携推進機構研修室にて、糸魚川市駅北大火の調査報告会を開催しました。矢田部センター長の司会のもと、約 40 名の方に参加いただき、報告会が始まりました。

最初に、愛媛大学大学院理工学研究科森准教授から「現地調査報告」と題して、大火の概要、現地調査結果概要、昭和 3 年・昭和 7 年糸魚川大火焼失地域、大火の際の風向・風速の経時変化、松山市の木造密集市街地の現状及び木造住宅密集地域において実施すべき震災対策について報告がありました。

次いで、愛媛大学防災情報研究センター二神副センター長から「愛媛県への教訓」と題して、火災延焼シミュレータを用いながら、愛媛県の教訓について報告がありました。

閉会にあたり矢田部センター長から講演会の振り返りと、地震火災シミュレーション・システムを行政・住民が操作し、火災・地震火災のイメージを高め、安全な火災対策・避難行動に役立ててもらいたいとのコメントがあり、閉会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：平成 29 年 1 月 20 日（金） 13:00～14:30

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

定 員：40 名

プログラム：

開会

「現地調査報告」

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎

「愛媛県への教訓」

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 二神 透

閉会



森准教授の講演



二神副センター長の講演

2.3.1 防災セミナーin西予市

セミナーでは、二神准教授から「津波避難について」と題して、熊本地震の被害状況、南海トラフ巨大地震が発生した際の被害予測等について説明がありました。

最後に総括として、高橋名誉教授から日頃の備えが大切であり、本日学んだことを生かし、家族全員で防災について考えることの重要性を説明しました。

プログラム :

西予市長 管家 一夫

津波避難ワークショップの実施

明浜地区の津波避難マップづくり」

総括

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 名誉教授 高橋 治郎



高橋名誉教授の挨拶



會 場 風 景

2.4 四国防災八十八話研究会

愛媛大学防災情報研究センターは、愛南町ならびに愛南町教育委員会と連携して、四国防災八十八話感想文コンクール表彰式及び作品発表会を、平成 29 年 3 月 11 日に御荘文化センターで開催しました。

厳正な審査の上、小学校の部では最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編の 3 編が、中学校の部では最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編の 3 編が表彰されました。受賞した児童生徒は、それぞれの作文を、保護者などの多くの参加者を前に堂々と発表しました。この子供たちが地域の将来を担う人材となり、地域防災の柱になってくれる日も近いことと期待されます。

平成 28 年度の入賞者は下記のとおりです。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立中浦小学校	6 年	松岡 愛美
	中学校の部	愛南町立御荘中学校	3 年	草木原寧子
優秀賞	小学校の部	愛南町立城辺小学校	5 年	藤本 和真
		愛南町立東海小学校	5 年	島本こはく
	中学校の部	愛南町立内海中学校	3 年	好岡 智紀
		愛南町立城辺中学校	2 年	高平なごみ

入賞作品は、(<http://cdmir.jp/download/>) にアップしています。

2.5 アーバンデザイン研究部門

防災情報研究センターでは、松山市都市再生協議会からの寄附を受けて「アーバンデザイン研究部門」を設置しました。28年度の主な活動は、下記のとおりです。詳しくは、別冊「松山アーバンデザインセンター28年度年報」をご覧ください。

※「松山アーバンデザインセンター28年度年報」については、防災情報研究センターまで問合せください。

2016.04.01：松山銀天街L字地区再開発全体協議会 第9回理事会
2016.04.06：第52回「まち@ラヂ」放送
2016.04.08：第10回松山アーバンデザインスクール
2016.04.12：第9回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.04.13：第53回「まち@ラヂ」放送
2016.04.14：道後温泉冠山事務所協議
2016.04.15：道後温泉冠山事務所協議
2016.04.20：お城下松山文化・観光委員会
2016.04.20：第54回「まち@ラヂ」放送
2016.04.21：グッドデザイン賞デザインセミナー『『共感』から考えるデザインのしくみ』
2016.04.21：道後温泉冠山事務所協議
2016.04.22：第11回松山アーバンデザインスクール
2016.04.23：ひろばのふぁーむ
2016.04.24：レゴで、あそんでまちづくり♪
2016.04.25：第15回UDCM運営会議
2016.04.27：第17回社会実験運営委員会
2016.04.27：第19回社会実験運営委員会
2016.04.27：第55回「まち@ラヂ」放送
2016.04.29：道後地区交通量調査
2016.05.04：第56回「まち@ラヂ」放送
2016.05.08：ひろばのふぁーむ
2016.05.10：道後温泉冠山事務所協議
2016.05.10：道後温泉本館保存修復専門委員検討会議
2016.05.10：編集ワークショップ
2016.05.11：ハッピー絵本ライブ
2016.05.11：第57回「まち@ラヂ」放送
2016.05.12：椿の湯前ファサード勉強会
2016.05.13-14：UDC forum2016 in Tamura(第4回アーバンデザインセンター会議：福島県田村市)
2016.05.13：第12回松山アーバンデザインスクール
2016.05.14：全国バスマップサミット
2016.05.15：道後地区交通量調査
2016.05.16：宇部市視察
2016.05.18：社会共創学部講演
2016.05.18：第58回「まち@ラヂ」放送
2016.05.19：松山銀天街L字地区再開発全体協議会 第10回理事会
2016.05.20：第10回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.05.21：みんなのひろばで動物とふれあおう！
2016.05.22：レゴで、あそんでまちづくり♪

2016.05.24 : 編集ワークショップ
2016.05.25 : ハッピー絵本ライブ
2016.05.25 : 第 18 回社会実験運営委員会
2016.05.25 : 第 59 回「まち@ラヂ」放送
2016.05.26 : 愛媛大学事業報告会
2016.05.27 : 第 13 回松山アーバンデザインスクール
2016.05.30 : 第 16 回 UDCM 運営会議
2016.05.30 : 第 1 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.05.31 : 第 3 回銀天街 L 字地区再開発検討専門部会
2016.06.01 : 第 60 回「まち@ラヂ」放送
2016.06.05 : ひろばのふぁーむ
2016.06.08 : ハッピー絵本ライブ
2016.06.08 : 第 11 回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.06.08 : 第 61 回「まち@ラヂ」放送
2016.06.09 : 「まちなか広場賞」(公共空間の「質」研究部会 一般社団法人国土政策研究会 国土交通省所管) 大賞受賞
2016.06.09 : 第 2 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.06.09 : 平成 28 年度第 1 回防災情報研究センター運営委員会
2016.06.10 : 「都市景観大賞」都市空間部門で国土交通大臣賞を受賞
2016.06.10 : 第 14 回松山アーバンデザインスクール
2016.06.12 : レゴで、あそんでまちづくり ♪
2016.06.14 : モバイル屋台プロジェクト
2016.06.14 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.06.14 : 編集ワークショップワークショップ
2016.06.15 : 第 12 回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.06.15 : 第 62 回「まち@ラヂ」放送
2016.06.18 : 夏だ！ 海だ！ あ、噴水だ！
2016.06.18 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.06.18 : 道後遺跡現地説明会
2016.06.22 : お城下松山文化・観光委員会
2016.06.22 : ハッピー絵本ライブ
2016.06.22 : 第 63 回「まち@ラヂ」放送
2016.06.23 : 第 5 回三津浜景観まちづくり勉強会
2016.06.24 : 第 15 回松山アーバンデザインスクール
2016.06.24 : 道後まち歩き
2016.06.25 : るんるんバルーン ♪
2016.06.25 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.06.28 : 道後地区交通打ち合わせ
2016.06.28 : 編集ワークショップ
2016.06.29 : 第 20 回社会実験運営委員会
2016.06.29 : 第 5 回アーバンデザイン研究会「アフリカ都市文化から学ぶ」
2016.06.29 : 第 64 回「まち@ラヂ」放送
2016.06.30 : 第 17 回 UDCM 運営会議
2016.07.01-07 : 笹に願いを
2016.07.02 : お休み処もぶる

2016.07.02 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.07.04 : 第3回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.07.06 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (西泉副市長と意見交換)
2016.07.06 : 第65回「まち@ラヂ」放送
2016.07.07 : お城下松山文化・観光委員会
2016.07.08 : 第16回松山アーバンデザインスクール
2016.07.09 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (羽藤教授と意見交換)
2016.07.09 : 夏だ! 海だ! あ、噴水だ!
2016.07.09 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.07.10 : 松山アーバンデザインスクール中間発表会
2016.07.13 : ハッピー絵本ライブ
2016.07.13 : 第66回「まち@ラヂ」放送
2016.07.15 : JCOMM 講演
2016.07.16 : まちなかペラ♪
2016.07.16 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.07.16 : 草津市長来訪
2016.07.16 : 大阪大学土井先生来訪
2016.07.17 : ひろばのふぁーむ
2016.07.17 : レゴで、あそんでまちづくり♪
2016.07.18 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ宝厳寺コンサート出展)
2016.07.19 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.07.20 : 第67回「まち@ラヂ」放送
2016.07.21 : 第4回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.07.21 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.07.22 : 夏のあそびかた
2016.07.22 : 第17回松山アーバンデザインスクール
2016.07.22 : 東京大学樋野先生来訪
2016.07.23 : 夏だ! 海だ! あ、噴水だ!
2016.07.23 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.07.25 : 第18回UDCM運営会議
2016.07.26 : お城下松山文化・観光委員会
2016.07.26 : 道後温泉活性化懇談会
2016.07.26 : 編集ワークショップ
2016.07.27 : ハッピー絵本ライブ
2016.07.27 : 第21回社会実験運営委員会
2016.07.27 : 第68回「まち@ラヂ」放送
2016.07.30 : しゃぼん玉であそぼう
2016.07.30 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ土曜夜市出展)
2016.07.31 : 坊ちゃん講演会参加
2016.08.01-02 : 海の家@もぶるテラス
2016.08.01-02 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ道後温泉夏祭り出展)
2016.08.02 : 第5回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.08.02 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.08.03 : 第69回「まち@ラヂ」放送
2016.08.05 : 椿の湯前ファサード勉強会

2016.08.06 : レゴで、あそんでまちづくり ♪
2016.08.06 : 松山アーバンデザインスクール (柳井町グループふるどうぐ市)
2016.08.07 : 第 6 回アーバンデザイン研究会「都市空間をつくり育てる」
2016.08.08 : 椿の湯前ファサード勉強会
2016.08.09 : 編集ワークショップ
2016.08.10 : まちなか発見! 子ども新聞記者&まわしよみ新聞
2016.08.10 : 第 13 回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.08.10 : 第 70 回「まち@ラヂ」放送
2016.08.10 : 第 7 回アーバンデザイン研究会「まちづくりを通じた『子育て支援』×『健康福祉』」
2016.08.13 : 辞書といっしょに、おやこでまちなか探検!
2016.08.17 : ハッピー絵本ライブ
2016.08.17 : 第 71 回「まち@ラヂ」放送
2016.08.19 : 第 18 回松山アーバンデザインスクール
2016.08.22 : 道後温泉審議会
2016.08.23 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.08.23 : 編集ワークショップ
2016.08.24 : お城下松山文化・観光委員会
2016.08.24 : ハッピー絵本ライブ
2016.08.24 : 第 1 回東温アーバンデザインスクール
2016.08.24 : 第 72 回「まち@ラヂ」放送
2016.08.27 : 松山アーバンデザインスクール (椿グループ円満ご長寿まつり)
2016.08.28 : ひろばのふあーむ
2016.08.29 : 第 19 回 UDCM 運営会議
2016.08.31 : 第 73 回「まち@ラヂ」放送
2016.09.01 : 第 6 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.09.02 : 第 19 回松山アーバンデザインスクール
2016.09.02 : 第 4 回銀天街 L 字地区再開発検討専門部会
2016.09.06 : 編集ワークショップ
2016.09.07 : 第 74 回「まち@ラヂ」放送
2016.09.08 : 第 1 回伊予アーバンデザインスクール
2016.09.08 : 第 6 回三津浜景観まちづくり勉強会
2016.09.09 : 第 14 回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.09.10 : レゴで、あそんでまちづくり ♪
2016.09.10 : 第 2 回東温アーバンデザインスクール
2016.09.11 : 第 1 回 JR 松山駅西 (仮称) 南江戸第 1 公園デザインワークショップ
2016.09.13 : 第 7 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.09.13 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.09.14 : ハッピー絵本ライブ
2016.09.14 : 第 75 回「まち@ラヂ」放送
2016.09.15 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (公民館勉強会)
2016.09.15 : 松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会 平成 28 年度第 1 回臨時総会
2016.09.16 : 第 20 回松山アーバンデザインスクール
2016.09.19 : お手玉&はんこ WS (なつかし遊び商店街)
2016.09.20 : 編集ワークショップ
2016.09.21 : 松山アーバンデザインスクール (柳井町グループいもたき会)

2016.09.21 : 第3回東温アーバンデザインスクール
2016.09.21 : 第76回「まち@ラヂ」放送
2016.09.22 : お城下松山文化・観光委員会
2016.09.23 : 第2回伊予アーバンデザインスクール
2016.09.28 : ハッピー絵本ライブ
2016.09.28 : 第22回社会実験運営委員会
2016.09.28 : 第4回東温アーバンデザインスクール
2016.09.28 : 第77回「まち@ラヂ」放送
2016.09.28 : 椿の湯新館デザイン発表会
2016.09.29 : グッドデザイン賞（公益財団法人日本デザイン振興会主催）受賞
2016.10.02 : 松山アーバンデザインスクール（柳井町グループ秋祭り）
2016.10.04 : 第8回まちづくり2050ビジョンワーキンググループ
2016.10.04 : 道後温泉審議会答申
2016.10.04 : 編集ワークショップ
2016.10.05 : 散策集まち歩き
2016.10.05 : 第20回UDCM運営会議
2016.10.05 : 第78回「まち@ラヂ」放送
2016.10.07 : 第3回伊予アーバンデザインスクール
2016.10.08-09 : 松山アーバンデザインスクール（写真撮影会 in みつはま）
2016.10.11 : 第9回まちづくり2050ビジョンワーキンググループ
2016.10.12 : ハッピー絵本ライブ
2016.10.12 : 第79回「まち@ラヂ」放送
2016.10.12 : 編集ワークショップ
2016.10.13 : 用地対策連絡協議会講演
2016.10.15 : まちづくり2050ビジョンワーキンググループ（羽藤教授・野原准教授と第2回意見交換）
2016.10.15 : 第4回花園町通りデザインワークショップ
2016.10.16 : 松山アーバンデザインスクール（まつトラムラリー）
2016.10.18 : 松山銀天街L字地区再開発全体協議会 第15回理事会
2016.10.19 : 第4回伊予アーバンデザインスクール
2016.10.19 : 第80回「まち@ラヂ」放送
2016.10.21 : POP UP LIBRARY☆BOOK SHARE CAFÉ
2016.10.21 : 第5回松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会
2016.10.21 : 第5回東温アーバンデザインスクール
2016.10.22 : 声優ワークショップ
2016.10.23 : 声優ワークショップ
2016.10.24 : 第15回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.10.24 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.10.26-30 : 松山アーバンデザインスクール（みつはま「私のまちの写真展」）
2016.10.26 : ハッピー絵本ライブ
2016.10.26 : 第23回社会実験運営委員会
2016.10.26 : 第81回「まち@ラヂ」放送
2016.10.26 : 日光輪王寺視察
2016.10.27 : 富岡製糸場視察
2016.10.28 : 第21回松山アーバンデザインスクール
2016.10.29-31 : まじょのぼうしをつくろう（まちなかてくてくハロウィン）

2016.10.29-31 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (神戸市・吹田市・和歌山市・岐阜市視察)
 2016.10.31 : 道後温泉冠山事務所協議
 2016.11.02 : 第 5 回伊予アーバンデザインスクール
 2016.11.02 : 第 82 回「まち@ラヂ」放送
 2016.11.03 : 松山アーバンデザインスクール (親子で映画を撮ろう)
 2016.11.03 : 松山アーバンデザインスクール (路地裏映画館 in 柳井町商店街)
 2016.11.06 : お城下大学文化・観光委員会
 2016.11.07 : 椿の湯新湯ファサード勉強会
 2016.11.07 : 日土小学校視察
 2016.11.09 : ハッピー絵本ライブ
 2016.11.09 : 第 83 回「まち@ラヂ」放送
 2016.11.10 : 第 21 回 UDCM 運営会議
 2016.11.11 : 第 6 回東温アーバンデザインスクール
 2016.11.12 : レゴで、あそんでまちづくり ♪
 2016.11.13 : 声優ワークショップ
 2016.11.14 : 第 16 回若手経営者の生業とまち再生研究会
 2016.11.15 : お気楽写真教室
 2016.11.16-18 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (新潟市・三条市・見附市・長岡市視察)
 2016.11.16 : 第 6 回伊予アーバンデザインスクール
 2016.11.16 : 第 84 回「まち@ラヂ」放送
 2016.11.17 : 第 8 回都市再生協議会
 2016.11.18 : POP UP LIBRARY☆BOOK SHARE CAFÉ
 2016.11.18 : 松山アーバンデザインスクール (未・来 job ビジネスプランコンテスト「最優秀賞」受賞)
 2016.11.18 : 第 22 回松山アーバンデザインスクール
 2016.11.2 : 声優ワークショップ
 2016.11.20-21 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (東京都・柏市視察)
 2016.11.23 : 第 85 回「まち@ラヂ」放送
 2016.11.25 : ハッピー絵本ライブ
 2016.11.25 : 太陽エネルギー学会市民公開講座講演
 2016.11.25 : 第 7 回東温アーバンデザインスクール
 2016.11.26 : 四国技術士会まち歩き
 2016.11.26 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ
 2016.11.26 : 松山アーバンデザインスクール最終報告会
 2016.11.27 : MOBURU DIY CLUB
 2016.11.27 : 第 2 回 JR 松山駅西 (仮称) 南江戸第 1 公園デザインワークショップ
 2016.11.30 : 第 24 回社会実験運営委員会
 2016.11.30 : 第 7 回伊予アーバンデザインスクール
 2016.11.30 : 第 86 回「まち@ラヂ」放送
 2016.12.02 : 第 8 回アーバンデザイン研究会「リノベーションまちづくり」
 2016.12.03 : 声優ワークショップ
 2016.12.04 : 松山アーバンデザインスクール (広島県民みかん de 交流会)
 2016.12.04 : 声優ワークショップ
 2016.12.06 : 道後館包装機器組合講演、編集ワークショップ
 2016.12.07 : ハッピー絵本ライブ
 2016.12.07 : 第 17 回若手経営者の生業とまち再生研究会

2016.12.07 : 第 87 回「まち@ラヂ」放送
2016.12.08 : 松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会 第 16 回理事会
2016.12.08 : 第 10 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.12.08 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.12.09 : 第 8 回東温アーバンデザインスクール
2016.12.10 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ
2016.12.10 : 草津市アーバンデザインセンター講演
2016.12.10 : 第 1 回松山駅周辺拠点地区まちづくり勉強会
2016.12.11 : 声優ワークショップ
2016.12.12 : 第 22 回 UDCM 運営会議
2016.12.13 : 第 1 回道後温泉審議会
2016.12.14 : 第 88 回「まち@ラヂ」放送
2016.12.14 : 第 8 回伊予アーバンデザインスクール
2016.12.14 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.12.15 : お城下大学文化・観光委員会
2016.12.15 : 金亀ライオンズクラブ講演
2016.12.16 : POP UP LIBRARY☆BOOK SHARE CAFÉ
2016.12.17 : 第 1 回松山駅周辺地区景観に関する意見交換会
2016.12.18 : Early Christmas Time
2016.12.18 : レゴで、あそんでまちづくり ♪
2016.12.20 : 第 18 回若手経営者の生業とまち再生研究会
2016.12.21-25 : モールの飾りつくり (てくてくクリスマス)
2016.12.21 : ハッピー絵本ライブ
2016.12.21 : 第 5 回銀天街 L 字地区再開発検討専門部会
2016.12.21 : 第 89 回「まち@ラヂ」放送
2016.12.24 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ
2016.12.25 : MOBURU DIY CLUB
2016.12.26 : 第 11 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.12.26 : 道後温泉冠山事務所協議
2016.12.27 : ひろばのふぁーむ
2016.12.28 : 新潟市議会議員視察
2016.12.28 : 第 12 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2016.12.28 : 第 90 回「まち@ラヂ」放送
2017.01.03 : 松山愛郷会 U30 (第 3 回)
2017.01.03 : 東京愛郷会ワークショップ
2017.01.04-31 : 外国ぶらり絵本たび
2017.01.04 : 第 91 回「まち@ラヂ」放送
2017.01.10 : まつやま景観賞表彰式及び景観まちづくりシンポジウム
2017.01.11 : ハッピー絵本ライブ
2017.01.11 : 第 92 回「まち@ラヂ」放送
2017.01.11 : 第 9 回伊予アーバンデザインスクール
2017.01.11 : 椿の湯新湯ファサード勉強会
2017.01.14 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ
2017.01.15 : レゴで、あそんでまちづくり ♪
2017.01.15 : 新年 夢書初め

2017.01.16 : 第 23 回 UDCM 運営会議
2017.01.17 : 第 19 回若手経営者の生業とまち再生研究会
2017.01.18 : 高齢者大学講演
2017.01.18 : 第 13 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2017.01.18 : 第 93 回「まち@ラヂ」放送
2017.01.19 : 平成 28 年度第 2 回防災情報研究センター運営委員会
2017.01.20 : POP UP LIBRARY☆BOOK SHARE CAFÉ
2017.01.20 : 第 9 回東温アーバンデザインスクール
2017.01.22 : MOBURU DIY CLUB
2017.01.23 : 第 14 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ
2017.01.25 : お城下松山文化・観光委員会
2017.01.25 : ハッピー絵本ライブ
2017.01.25 : 第 10 回伊予アーバンデザインスクール
2017.01.25 : 第 25 回社会実験運営委員会
2017.01.25 : 第 94 回「まち@ラヂ」放送
2017.01.28-29 : 松山アーバンデザインスクール（「つばき」に親しむイベント出展）
2017.01.28 : 週末はまちなかで子育てをまなぶ
2017.02.01 : 第 95 回「まち@ラヂ」放送
2017.02.02 : 宇都宮市視察
2017.02.02 : 編集ワークショップ
2017.02.03 : 松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会 平成 28 年度第 2 回臨時総会
2017.02.03 : 第 10 回東温アーバンデザインスクール
2017.02.05 : お城下松山文化・観光委員会
2017.02.06 : 東京ミッドタウン・デザインハブ講演
2017.02.08 : ハッピー絵本ライブ
2017.02.08 : 第 96 回「まち@ラヂ」放送
2017.02.10 : 子規博横交差点信号現示変更協議、景観まちづくりシンポ
2017.02.13 : 大阪市視察
2017.02.15 : 第 3 回松山市駅前広場デザインワークショップ
2017.02.15 : 第 97 回「まち@ラヂ」放送
2017.02.17 : 第 11 回伊予アーバンデザインスクール
2017.02.18 : MOBURU DIY CLUB
2017.02.22 : ハッピー絵本ライブ
2017.02.22 : 第 26 回社会実験運営委員会
2017.02.22 : 第 98 回「まち@ラヂ」放送
2017.02.23 : 道後温泉冠山事務所協議
2017.02.24 : POP UP LIBRARY☆BOOK SHARE CAFÉ
2017.02.26 : 郡中まちクエスト
2017.03 : 駐車場 Map づくり
2017.03.01 : 第 99 回「まち@ラヂ」放送
2017.03.03 : 第 12 回伊予アーバンデザインスクール
2017.03.03 : 道後温泉冠山事務所協議
2017.03.08 : ハッピー絵本ライブ
2017.03.08 : 第 100 回「まち@ラヂ」放送
2017.03.10 : 第 15 回まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ

2017.03.12 : 第3回 JR 松山駅西 (仮称) 南江戸第1公園デザインワークショップ
2017.03.15 : 第101回「まち@ラヂ」放送
2017.03.17 : 第24回 UDCM 運営会議
2017.03.19 : お城下マルシェ
2017.03.20 : まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ (副市長・羽藤教授と意見交換)
2017.03.21 : 平成28年度防災情報研究センター外部評価委員会
2017.03.22-23 : 第20回若手経営者の生業とまち再生研究会(尾道視察)
2017.03.22 : ハッピー絵本ライブ
2017.03.22 : 第102回「まち@ラヂ」放送
2017.03.23 : 第13回伊予アーバンデザインスクール
2017.03.24 : POP UP LIBRARY☆BOOK SHARE CAFÉ
2017.03.25 : MOBURU DIY CLUB
2017.03.25 : 第1回街なか再生サポーター会議
2017.03.29 : 第103回「まち@ラヂ」放送
2017.03.29 : 板橋区議員視察
2017.03.30 : 第27回社会実験運営委員会

2.6 防災士養成講座

愛媛大学防災情報研究センターは、松山市消防局等の協力の下、平成28年8月27日(土)～30日(火)及び10月13日(木)～16日(日)、「防災士養成講座」を松山市保健所消防合同庁舎防災センターで開催し、平日(月・火、木・金)コースと休日(土・日)コース併せて、自主防災会の皆様、企業関係者、学生など610名の参加がありました。多数のご参加をいただき、誠にありがとうございます。

この講座は、防災に関する正しい知識と技能を持ち、災害時には、自助、共助の中心として地域で活躍できる防災士を養成することを目的としています。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター矢田部龍一センター長から先日の熊本地震被害において、多数の死者や行方不明者など悲劇的な状況となっており、想像を超えた災害は、今後もどこでも起こり得ることで。自分の命は自分で守ることが基本ですが、災害弱者をいかに守るかを含め、災害の危険度を認識できる防災士(地域のリーダー)の役割は重要です。この講座において、防災に関する意識・知識・技能を高めていただき、災害時に活躍できる防災士を目指していただきたいとの挨拶がありました。

なお、講座内容は、愛媛大学防災情報研究センターの教員から、近年の自然災害に学ぶ、耐震診断と補強、都市防災、風水害、土砂災害とその対策、地震のしくみと被害等についての講義を担当、また松山市職員から防災士の役割、避難所運営、地域の防災活動、地域防災計画と防災マップ、松山市における災害とその対応等の講義及び災害から命を守る救助技術の実技として、ロープワーク、応急担架の作成や搬送方法、倒壊家屋からの救出救護の方法について参加者一人ひとりが技術の習得をされました。

最終日、日本防災士機構が実施する防災士の試験を希望された参加者は、緊張の中、真剣に試験問題に取り組んでいました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：第1回 平成28年8月27日(土)～28日(日)

第2回 平成28年8月29日(月)～30日(火)

第3回 平成28年10月13日(木)～14日(金)

第4回 平成28年10月15日(土)～16日(日)

場 所：松山市保健所・消防合同庁舎

参加者：610名



講義の様子



←実技指導の様子

講座日程（カリキュラム）：

日程	会場	時 限	時 分	講 義 内 容	講 師	
1 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	趣旨説明 ビデオ上映	9:15～9:30	オリエンテーション		
		1 時限目	9:30～10:30	防災士の役割	松山市消防局 二宮 達司 講師	
		2 時限目	10:40～11:40	近年の自然災害に学ぶ	愛媛大学 矢田部龍一 講師	
		昼 食（防災ビデオ上映）				
		3 時限目	12:40～13:40	耐震診断と補強	愛媛大学 二神 透 講師	
		4 時限目	13:50～14:50	都市災害	愛媛大学 二神 透 講師	
		5 時限目	15:00～16:00	風水害、土砂災害とその対策	愛媛大学 森脇 亮 講師	
		6 時限目	16:10～17:10	地震のしくみと被害	愛媛大学 高橋 治郎 講師	
			17:10～17:20	事務連絡		
2 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	1 時限目	9:30～11:40	災害から命を守る救助技術 実技指導	松山市消防局	
		2 時限目				
		昼 食（防災ビデオ上映）				
		3 時限目	12:40～13:40	避難所運営	松 山 市 野本 裕子 講師	
		4 時限目	13:50～14:50	地域の防災活動	松山市消防局 芝 大輔 講師	
		5 時限目	15:00～16:00	地域防災計画と防災マップ	松 山 市 伊達 真 講師	
		6 時限目	16:10～17:10	松山市における災害とその対応	松 山 市 小原 友弘 講師	
		日本防災士 機構 主催	17:30～18:30	防災士資格取得試験	NPO法人日本防災士機構が実施する 防災士資格取得試験です。	

2.7 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座

【実施スケジュール】

受講申請書受付

期間：平成 28 年 7 月 21 日（木）～平成 28 年 8 月 26 日（金）

ME 養成講座（前期 5 日間，中期 2 日間，後期 5 日間 合計 12 日間）

【前期日程】平成 28 年 9 月 26 日（月）～平成 28 年 9 月 30 日（金）

【中期日程】平成 28 年 10 月 6 日（木），平成 28 年 10 月 14 日（金）

【後期日程】平成 28 年 10 月 17 日（月）～平成 28 年 10 月 21 日（金）

今年度より，e ラーニング(橋梁関係)を導入し，講座修了が条件とした。

愛媛大学履修証明プログラムとするため，121.5 時間に内容を拡大した。

養成講座の開講時期を 1 ヶ月前倒し(ME 履修証明書による国交省資格申し込みのため)

ME 認定試験

期日：平成 28 年 11 月 4 日（金） 筆記試験（論文＋専門知識）：専門知識は 25 問

期日：平成 28 年 11 月 11 日（金） プレゼンテーション試験（発表 7 分，質疑 8 分）

ME 認定試験結果 ME1 期生，ME2 期生，今年度の ME3 期生 合格者合計 66 名

ME 認定試験合格者 21 名（ME 養成講座受講生 24 名，講座修了生 23 名）

ME1 期生，ME2 期生：e ラーニング，追加講座の受講，専門知識試験 合格者 45 名

徳島での橋梁メンテナンス養成プログラムの実施 参加者 32 名

期日 平成 28 年 11 月 18 日（金），19 日（土）の 2 日間

今年度 ME 養成講座の四国展開の一つとして徳島大学で試行講座を実施

ME 認定書授与式及び ME シンポジウム 参加者 240 名

期日：平成 29 年 1 月 6 日（金） 場所：愛媛大学南加記念ホール

【協議会等の開催状況】

4 月 20 日 第 1 回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

7 月 20 日 第 2 回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

7 月 29 日 愛媛 ME の会総会

9 月 1 日 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座 受講生申し込み審査

10 月 28 日 愛媛大学 ME 養成講座運営委員会試験審査会

11 月 11 日 愛媛大学 ME 養成講座運営委員会試験審査会

12 月 14 日 第 3 回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

表一1 平成28年度社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座一覧表

H28年度社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座の時間割						
	1時限目 (8:30～10:00)	2時限目 (10:20～11:50)	3時限目 (12:40～14:10)	4時限目 (14:30～16:00)	5時限目 (16:20～17:50)	(18:30～20:00)
9/26 (月)	養成講座の概要説明及び 目的目標(ガイダンス) 【愛媛大学:森崎亮】 【岐阜大学:熊田素子】	社会資本とアセットマネジ メント概論 【愛媛県:高橋洋八郎】 【四国地整:香西邦信】	アセットマネジメント概論 (構造物全般) 【大阪大学:貝戸清之】		グループ 事例研究 【岐阜大学: 熊田素子】	講義、事例研究の レポート作成
9/27 (火)	ライフサイクルコスト 概論(構造物全般) 【岐阜大学: 杉浦聡志】	ライフサイクル コスト 演習 【岐阜大学: 杉浦聡志】	道路法の改正と 道路保全 【四国地整:原田康】	港湾・海岸施設の 維持管理 【愛媛県:近藤幸利】 【四国地整:小田幸伸】	グループ 事例研究 【愛媛大学: 山下祐一】	講義、事例研究の レポート作成
9/28 (水)	劣化モデルと 評価手法 【愛媛大学:全邦邦】	劣化モデルと 評価手法 【愛媛大学:全邦邦】	舗装の設計と 維持管理 【NEXCO:紙田直充】	橋梁上部工の設計、 維持管理(鋼橋) 【愛媛県:玉田和也】	グループ 事例研究 【岐阜大学: 熊田素子】	講義、事例研究の レポート作成
9/29 (木)	構造物の 基礎工・下部工設計 【岐阜大学:原隆史】	橋梁の耐震補強 【四国建設 コンサルタント: 佐伯龍司】	橋梁の補修設計 【大日本コンサル: 小林大】	橋梁技術の最前線 【高知工科: 那須清吉】	コンクリート橋の 損傷と対策 【大日コンサル: 伏野徹】	講義、事例研究の レポート作成
9/30 (金)	リスクマネジメント 概論 【愛媛大学: 森伸一郎】	橋梁上部工の 設計、維持管理 (コンクリート橋) 【愛媛大学:氏家聡】	鋼橋の損傷と対策 【岐阜大学: 村上茂之】	橋梁上部工の設計、維 持管理(床版) 【徳島大学: 上田隆雄】	グループ 事例研究 【岐阜大学: 熊田素子】	講義、事例研究の レポート作成
10/6 (木)	橋梁の点検手法 【愛媛県:越智淳志】	構造物の維持管理 【愛媛大学: 森伸一郎】	実習 橋梁の維持管理 【愛媛大学:森伸一郎、全邦邦】【英吾コンサル:須賀幸一】			講義、事例研究の レポート作成
10/14 (金)	トンネルの設計 【鹿島建設:木村宏】	トンネルの維持管理 【応用地質: 太田裕之】	実習 トンネルの維持管理 【応用地質:太田裕之】【四国地整、愛媛県】			講義、事例研究の レポート作成
10/17 (月)	下水道の維持管理 【NJS:八木孝志】	実習 下水道の 維持管理 【松山市】	斜面の維持管理 【愛媛大学:山下祐一】 【英吾コンサル: 須賀幸一】	斜面の維持管理 演習 【愛媛大学:山下祐一】 【英吾コンサル:須賀幸一】		講義、事例研究の レポート作成
10/18 (火)	擁壁の設計と 維持管理 【第一コンサル: 右城猛】	擁壁の設計と 維持管理 演習 【第一コンサル: 右城猛】	実習 自然斜面、落石、切土、擁壁の維持管理 【第一コンサル:右城猛】【英吾コンサル:須賀幸一】 【愛媛大学:山下祐一】			講義、事例研究の レポート作成
10/19 (水)	健全度評価手法 (地盤) 【徳島大学: 瀧岡良介】	洪水被害の 概要と対策 【国交省:竹田正彦】	河川構造物の 維持管理 【国総研: 佐々木隆】	ISO55000から学ぶアセ ットマネジメントシステム 【土木研究所: 鳥居謙一】	成果発表 【愛媛大学】	講義、事例研究の レポート作成
10/20 (木)	健全度評価手法 (土構造物) 【岐阜大学:八幡厚】	補強土 【前田工機: 辻慎一朗】	四国・愛媛県の 地形と地質 【香川大学: 長谷川修一】	地震発生による 被害と対策 【香川大学:松島孝】	津波発生と被害想定 範囲予測と対策 【愛媛大学:二神透】	講義、事例研究の レポート作成
10/21 (金)	土砂災害・地震災害の 概要と対策 【愛媛大学: 山下祐一】	土砂災害・地震災害の概要と対策 演習 【愛媛大学: 山下祐一】	地震対策のソフト対策 と避難 演習 【愛媛大学:二神透】	今後の技術向上に 向けて(閉講式) 【愛媛大学】		講義、事例研究の レポート作成
eラーニング	橋梁工学		コンクリート構造物の損傷		鋼構造物の損傷	
	構造物の補修・補強		共通の損傷		橋の点検要領	
	コンクリート橋の点検		鋼橋の点検		構造物の詳細調査	
【内訳】						
	座学	58.5 時間				
	演習	10.5 時間				
	実習	15 時間				
	グループ研究	6 時間				
	レポート作成	18 時間				
	eラーニング	13.5 時間				
		121.5 時間				

表ー２ 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座の実施状況



ME 養成講座の受講の様子



津波避難シュミレーション演習状況



ME 養成講座 グループ事例研究発表の様子



松山市北条 立岩橋の橋梁現場実習の様子



橋梁現場実習後の取りまとめの様子



今治市 砥鹿山隧道高所作業車による点検

社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座シンポジウム

～ 愛媛と四国を守るインフラ維持管理の技術開発と人材育成プロジェクト ～

■日 時：2017年1月6日（金）14：40～17：30

■会 場：愛媛大学南加記念ホール

■参加者：240名

■プログラム

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部龍一

講演「インフラストラクチャと技術開発」

横浜国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授 藤野陽三

講演・討論会「社会基盤維持管理の技術開発と人材・ネットワーク構築」

講演「道路メンテナンスの現状と取組みについて」

国土交通省四国地方整備局道路部道路保全企画官 原田 康

講演「愛媛県の維持管理の現状と将来」

愛媛県土木部技術企画室長 葛原健二

講演「愛媛大学の技術開発（SIP）と人材育成の取り組み」

愛媛大学大学院理工学研究科准教授 全 邦釘

講演「MEの会のネットワークと今後の活動」

愛媛MEの会副会長 大野哲也

パネルディスカッション

パネラー 藤野陽三，全邦釘，原田康，葛原健二，須賀幸一，大野哲也

コーディネーター 愛媛大学防災情報研究センター教授 山下祐一

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 吉井稔雄

（司会：愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 二神 透）



ME シンポジウムのパネルディスカッションと会場の様子

ME 認定証授与式



認定証授与式の様子



平成 28 年度 ME 認定者と大学スタッフ

社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座の目的

- ・社会インフラの資産マネジメントならびに長寿命化の観点に立って、俯瞰的に社会基盤の維持管理を行うことの出来る技術者（社会基盤の“目利き”）を養成する。
- ・愛媛や四国の地域特性を踏まえ、地震や豪雨などの防災・減災にも精通した地域の核となる技術者を育成する。
- ・人的ネットワークの形成

産官学の垣根のない「技術と知識に基づく人的ネットワークの構築」

立場の枠を超えたコミュニケーションの実現

表―3 徳島の橋梁メンテナンスエキスパート養成プログラム

月日	時間	講座名	講師	備考
H28/11/18(金)	1・2 講時(8:40～10:10)	ガイダンス(講座説明、紹介など)・アイスブレイク	徳島大学 橋本親典、上田隆雄 岐阜大学 (熊田素子) 愛媛大学 森脇亮、全邦釘	ME
	3・4 講時(10:25～11:55)	橋梁の点検と長寿命化修繕計画	四国地方整備局 徳島県県土整備局	
	5・6 講時(12:50～14:20)	コンクリート橋の構造と劣化	徳島大学 上田隆雄	ME
	7・8 講時(14:35～16:05)	橋梁のアセットマネジメント	香川大学 岡崎慎一郎	
	9・10 講時(16:20～17:50) 18:00～	ワークショップ 交流会	岐阜大学 沢田和秀、熊田素子	
H28/11/19(土)	1・2 講時(8:40～10:10)	橋梁の非破壊検査	徳島大学 渡邊 健	
	3・4 講時(10:25～11:55)	橋梁の点検・診断と維持管理	愛媛大学 森伸一郎、全邦釘	
	5・6 講時(12:50～14:20)	フィールドワーク 橋梁の点検と維持管理	愛媛大学 森伸一郎、全邦釘	
	7・8 講時(14:35～16:05)	ワークショップ 橋梁の点検と維持管理		
	9・10 講時(16:20～17:50)	修了式	徳島大学 橋本親典、上田隆雄	

研修会場：徳島大学工業会館 1F 多目的室



徳島試行講座(2日間)の講義、現場実習、修了者の様子

2.8 その他の講演会等

2.8.1 特別講演会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 28 年 6 月 20 日（月）15 時 00 分から愛媛大学南加記念ホールにて、防災情報研究センター特別講演会を開催しました。二神准教授の司会のもと、200 名の参加者で埋め尽くされる中、矢田部センター長の開会挨拶で特別講演会が始まりました。

講演では、森准教授から「熊本地震の被害の特徴と学びたい教訓」と題して、熊本地震の概要と被害状況の報告がありました。また、阿蘇神社の倒壊から、災害脆弱性が明らかな文化財については、見えない形での耐震対策を講じる必要があり、古くても適切な維持管理をしていれば、伝統建築は地震に強く、これは一般家屋にも当てはまることであると指摘しました。

次に矢田部センター長から「ネパール・ゴルカ地震被害と日ネ防災連携の推進」と題して、地震被害の状況を報告するとともに、先進国で唯一の大規模地震国家である日本の責務として、日本の優れたソフト対策（防災教育）をネパールに移転すべきであると指摘しました。

最後に国土交通省四国地方整備局企画部長の畠中氏から「四国の防災・減災と社会資本の維持管理」と題して、東日本大震災、熊本地震への国土交通省の対応について紹介がありました。また、南海トラフ巨大地震に備えて、緊急輸送路の確保、緊急時の海上輸送に対応した防災拠点の機能・役割・連携、社会インフラの耐震対策の推進、防災訓練の実施等、様々な対策を講じていることや、厳しい財政状況の中で社会資本を整備する必要性について説明しました。写真や詳細なデータをもとに分かりやすく説明いただき、大変貴重な講演となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：平成 28 年 6 月 20 日（月） 15:00～17:35

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：200 名

プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

特別報告

「熊本地震の被害の特徴と学びたい教訓」

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎

「ネパール・ゴルカ地震被害と日ネ防災連携の推進」

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

特別講演

「四国の防災・減災と社会資本の維持管理」

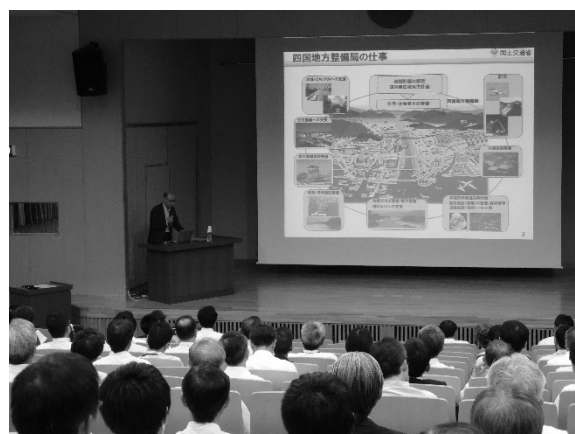
国土交通省四国地方整備局長 石橋 良啓

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 吉井 稔雄



矢田部センター長の挨拶



石橋四国地方整備局長の講演

2.8.2 アジア地域防災情報共有講演会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 28 年 7 月 29 日（金）16 時 00 分から愛媛大学校友会館にて、アジア地域防災情報共有講演会を開催しました。ネトラ准教授の司会のもと、15 名の参加者があり、矢田部センター長の開会挨拶で講演会が始まりました。

講師の H. Jayalath Edirisinghe 氏は、スリランカ出身で、現在国立ペラデニヤ大学工学部の Senior Lecturer として教育研究活動を行っております。また、Edirisinghe 氏は元愛媛大学留学生でもあり、1994 年に愛媛大学大学院連合農学研究科より博士号を取得しています。

講演では、「2016 年スリランカ洪水・土砂災害による被害と教訓」と題して、今年 5 月に起きた洪水・土砂災害による被害と教訓について講演いただきました。5 月 14 日よりインド洋ベンガル湾に発生した低気圧が 17 日まで続き、スリランカ全土に膨大な雨を降らした結果、今回の洪水・土砂災害に至ったこと、スリランカ全国において約 50 万人が災害の影響を受け、約 200 名が犠牲になったとの報告がありました。

今回は、スリランカ全土に膨大な被害をもたらした洪水・土砂災害の教訓について講演いただき、有益な情報を得ることができました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

後 援：地盤工学会四国支部・愛媛地盤工学研究会

日 時：平成 28 年 7 月 29 日（金）16:00～17:00

場 所：愛媛大学校友会館 2 階サロン

参加者：15 名

プログラム：

2016 年スリランカ洪水・土砂災害による被害と教訓

(The 2016 Sri Lanka landslide and flood disasters and lessons learned)

H. Jayalath Edirisinghe, Ph.D.; Senior Lecturer, Peradeniya University, Sri Lanka



参加者で記念撮影

2.8.3 インフラ建設マネジメント講演会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 28 年 10 月 19 日（水）14 時 30 分から愛媛大学南加記念ホールにて、インフラ建設マネジメント講演会を開催しました。二神副センター長の司会のもと、約 200 名の方に参加いただき、矢田部センター長の開会挨拶で講演会が始まりました。

講演会では、我が国の建設マネジメントの中核を担う方々から最先端の話題が提供されました。

最初に、一般社団法人日本建設業連合会常務執行役小池氏から「建設現場の生産性向上について」と題して、生産性のマジック、日本建設業連合会の取り組み、民間における取り組み及び今後の取り組みについて説明がありました。

次いで、国立研究開発法人土木研究所鳥居研究調整監から「ISO55000 から学ぶアセットマネジメントシステム」と題して、現行のアセットマネジメントを国際標準である ISO55000 で分析・評価することにより改善策を見出すこと。また、土木研究所のメンテナンス関係の研究について紹介があり、現場でのイノベーションを促すことについて説明がありました。

引き続いて、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)インフラ維持管理・更新・マネジメント技術サブプログラムディレクター若原氏から「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術の新展開」と題して、基礎研究から出口（実用化・事業化）までを見据え、規制・制度改革や特区制度の活用も視野に入れて推進している内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)について説明がありました。

閉会にあたり吉井副センター長から講演会の振り返りと、これから益々重要となるインフラ建設マネジメントの高度化や維持管理技術の向上が、昨今の建設業界における最重要課題の一つになっていくことが示され、閉会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：平成 28 年 10 月 19 日（水） 14:30～17:15

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：200 名

プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

講演 1. 建設現場の生産性向上について

一般社団法人 日本建設業連合会 常務執行役 小池 剛

講演 2. ISO55000 から学ぶアセットマネジメントシステム

国立研究開発法人 土木研究所 研究調整監 鳥居 謙一

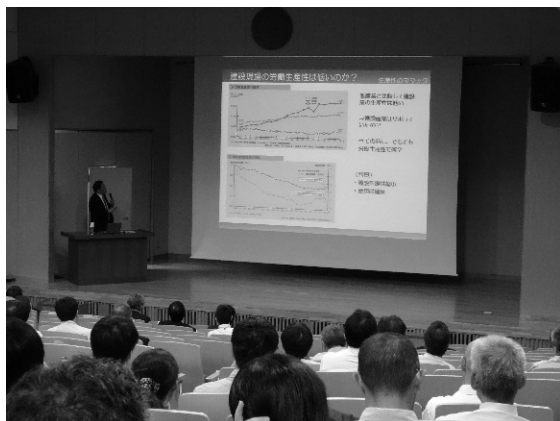
講演 3. インフラ維持管理・更新・マネジメント技術の新展開

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）

インフラ維持管理・更新・マネジメント技術

サブプログラムディレクター 若原 敏裕

閉会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 吉井 稔雄



日本建設業連合会
小池氏の講演



SIP サブプログラムディレクター
若原氏の講演

2.8.4 国立大学協会「防災・日本再生シンポジウム」大規模地震災害に学ぶ事前復興デザイン ー南海トラフ巨大地震に備えるー

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 28 年 11 月 2 日（水）13 時 00 分から愛媛大学南加記念ホールにおいて、国立大学協会「防災・日本再生シンポジウム」“大規模地震災害に学ぶ事前復興デザインー南海トラフ巨大地震に備えるー”を開催しました。報告会には、県、市町、企業関係者、学生、一般市民ら約 150 名の参加者がありました。

初めに、東京大学大学院工学研究科教授 羽藤 英二氏より「復興から描く地域デザイン」と題して、東日本大震災での被害状況や復興に向けた動き等の説明があり、それらを教訓に南海トラフ巨大地震の事前復興に向けてすべきこと等が紹介されました。

続いて、長岡技術科学大学大学院技術研究院教授 大塚 悟氏より「中越地震の復興デザインと課題」と題して、長岡市の概要や中越大地震の被害状況等の説明がありました。また、復旧事業の新しい試みとして、選択的強化の発想や基幹道路の複線化や、個人住宅の復旧に時間がかかること等の課題が紹介されました。

次に、ネパール政府国会総務委員会事務局長 Gautam, Bharat Raj 氏より「2015 年ネパールゴルカ地震とネパール政府の対応および復興計画」と題して、ネパールゴルカ地震の被害状況や政府の緊急対応、国際支援団体の対応や今後の課題と教訓について報告がありました。また、地震の様子をビデオで紹介し、甚大な被害状況を確認することができました。

徳島大学大学院理工学研究部教授 中野 晋氏からは、「公共機関の業務継続戦略と危機管理人材育成について」と題して、災害時の地域継続を進めるための公共機関の業務継続や人材育成について講演いただきました。

最後に、「巨大地震災害に向けた事前復興計画の重要性」と題して総合討論を実施し、講師への質問等活発な意見交換に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：一般社団法人 国立大学協会

日 時：平成 28 年 11 月 2 日(水) 13:00～16:30

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：150 名

プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

基調講演 復興から描く地域デザイン

東京大学大学院工学研究科教授 羽藤 英二

特別講演 一大規模地震災害の復興事例と復興対応ー

1. 中越地震の復興デザインと課題

長岡技術科学大学大学院技学研究院教授 大塚 悟

2. The 2015 Gorkha Earthquake in Nepal and government's response to the disaster and reconstruction plan (2015 年ネパールゴルカ地震とネパール政府の対応および復興計画)

ネパール政府国会総務委員会事務局長 Gautam, Bharat Raj

3. 公共機関の業務継続戦略と危機管理人材育成について

徳島大学大学院理工学研究部教授 中野 晋

総合討論 「巨大地震災害に向けた事前復興計画の重要性」

閉会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター副センター長 吉井 稔雄



東京大学大学院工学研究科
羽藤教授の講演



ネパール政府国会総務委員会事務局長
Gautam, Bharat Raj 氏の講演

2.8.5 防災講演会

「地震防災を目的とした地盤情報の利活用」

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 29 年 1 月 10 日（火）14 時 00 分から愛媛大学社会連携推進機構研修室にて、防災講演会「地震防災を目的とした地盤情報の利活用」を開催しました。矢田部センター長の司会のもと、約 40 名の方に参加いただき、講演会が始まりました。

熊本地震や鳥取地震など地震災害が続発している中、地震動による被害想定を行うには、地盤データベースの構築は必須の課題です。

本講演会では、防災科学技術研究所等を中心に行われている地盤データベースの構築とその活用例について最新の知見が紹介されました。

最初に、国立研究開発法人防災科学技術研究所大井氏から「地盤情報に関する最近の動向」と題して、日本の地質地盤の特徴、自然災害と地質地盤、地下の地質地盤情報で何がわかるか、現状の課題と方策及び二次利用と法整備について説明がありました。

次いで、一般財団法人地域地盤環境研究所山本氏から「地震被害予測と地盤情報の役割」と題して、地震防災調査と地盤情報の歴史の一端、現在の地震防災の視点、地震被害の予測（被害想定調査）、地震現象（揺れ）の予測、地震現象（液状化）の予測及び全国電子地盤図を Web 公開していることについて説明がありました。

引き続いて、国立研究開発法人防災科学技術研究所木村氏から「浅い地盤モデルの 3 次元モデル化手法とその適用事例」と題して、三次元地盤モデルの要件と目標、三次元地盤モデルの手法及び適用例として東京低地付近の微地形区分と地盤の地質について説明がありました。

最後に、愛媛大学社会共創学部ネトラ准教授から「常時微動観測によるネパールカトマンズ盆地の地盤構成に関する検討」と題して、ネパールと地盤情報データベースの必要性、カトマンズ盆地の成立・地盤の特徴、地盤情報データベースの構築及び微動観測結果との比較について説明がありました。

閉会にあたりネトラ准教授から講演会の振り返りと、地盤構造は、著しい不整形さと側方変化を反映して、地震動増幅の影響が大きく被害予測を行う上で正確な地盤構造モデル構築の必要性が高い。しかし、従来の手法では限界があり、利用しやすい有用な手法とそのツールも開発が求められていることを示唆し、閉会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：平成 29 年 1 月 10 日（火） 14:00～17:00

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

参加者：40 名

プログラム：

「地盤情報に関する最近の動向」

（国研）防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 大井 昌弘

「地震被害予測と地盤情報の役割」

（一財）地域地盤環境研究所 山本 浩司

「浅い地盤モデルの3次元モデル化手法とその適用事例」

(国研) 防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 木村 克己

「常時微動観測によるネパールカトマンズ盆地の地盤構成に関する検討」

愛媛大学社会共創学部 ネットラ P.バンダリ



防災科学技術研究所
大井氏の講演



防災科学技術研究所
木村氏の講演

2.8.6 愛媛大学サテライトオフィス「ネパール地震復興デザインセンター」活動報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成29年3月3日(金)15時30分から愛媛大学社会連携推進機構研修室にて、愛媛大学サテライトオフィス「ネパール地震復興デザインセンター」活動報告会を開催しました。矢田部センター長の司会のもと、約50名の方に参加いただき、報告会が始まりました。

2015年4月25日にネパールでM7.8の地震が発生し、犠牲者9,000人、全壊家屋75万棟、世界文化遺産建造物の倒壊や道路損壊などの多大な被害が出ました。その損失額は国家経済に10年間も影響を与えるほどのものです。

本センターは、ネパールの防災教育研究面で世界をリードしてきています。ネパール地震発生に際しては、皆様方からの寄付金をもとに、カトマンズに「愛媛大学サテライトオフィス・ネパール地震復興デザインセンター」をいち早く設置し、精力的に活動してきました。今回は、この2年間の活動について報告し、皆様とともにネパールの地震復興について情報を共有します。

最初に、愛媛大学防災情報研究センターネットラ准教授から、愛媛大学サテライトオフィス・地震復興デザインセンター活動報告として、ヒマラヤ保全会との連携、学校校舎復校支援、被害者心理アンケート調査、防災教育セミナー及び各省庁との連携を行ったことについて報告がありました。

引き続き、ネパールの地震復興のカギとなる防災法案策定の中心メンバーであるネパール国会議員のネパール国会・総務委員会委員長 ^{ガルティ ディル バハドウル} Gharti Dil Bahadur 代議士から「2015年ネパール地震災害と今後の地震防災計画に向けた国会における活動」について、ネパール国会・総務委員会委員、ヒマラヤ保全会会長 ^{ガンガラル トゥラダル} Gangalal Tuladhar 代議士から「2010年以来愛媛大学との連携を活かしたネパール政界と一

般社会における私の防災活動」について、最後にネパール国会・総務委員会委員 ^{サンタ クマル ダライ} Santa Kumar Darai 代議士から「ネパールの主要各政党内における国家防災計画の構想」について貴重な情報が提供されました。

閉会にあたり二神副センター長から報告会の振り返りと、新防災法案が早期に国会可決され、実行されるよう愛媛大学も連携・協力をしていくことを確認し、閉会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：平成 29 年 3 月 3 日（金） 15:30～17:00

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

参加者：50 名

プログラム：

「開会挨拶および地震復興デザインセンター設置について」

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

「愛媛大学サテライトオフィス・地震復興デザインセンター活動報告」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 バンダリ ネットラ P.

「2015 年ネパール地震災害と今後の地震防災計画に向けた国会における活動」

ネパール国会・総務委員会委員長 ^{ガルティ ディル バハドゥル} Gharti Dil Bahadur 代議士

「2010 年以来愛媛大学との連携を活かしたネパール政界と

一般社会における私の防災活動」

ネパール国会・総務委員会委員、ヒマラヤ保全会会長 ^{ガン ガラル トゥラダル} Gangalal Tuladhar 代議士

「ネパールの主要各政党内における国家防災計画の構想」

ネパール国会・総務委員会委員 ^{サンタ クマル ダライ} Santa Kumar Darai 代議士

「閉会の挨拶」

愛媛大学防災情報研究センター・副センター長 二神 透



ネットラ P. 准教授の講演



ヒマラヤ保全会会長 ^{ガン ガラル トゥラダル} Gangalal Tuladhar 代議士の講演

2.8.7 国土交通省登録資格「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」認定報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 29 年 3 月 8 日（水）16 時から愛媛大学社会連携推進機構研修室にて、国土交通省登録資格「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」認定報告会を開催しました。会場には約 50 名の方に参加いただき、矢田部センター長の開会挨拶で報告会が始まりました。

愛媛大学が認定する「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」が、四国に本拠を置く機関・団体では初めて、国土交通省の規定を満たす技術者資格として、四国で初めて認められました。

愛媛大学は老朽化が深刻な地域のインフラを維持管理する人材育成などを目的に平成 26 年度からメンテナンスエキスパート養成講座を実施しており、これまで 66 名の修了生に「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」資格を付与しました。

最初に、愛媛大学大学院理工学研究科森脇教授から「国土交通省登録資格認定の報告および資格の活用について」と題して、民間団体などが運営する一定水準の技術力などを有する資格について、国や地方公共団体の業務に活用できるようにする国土交通省の登録資格制度の狙いなどの説明がありました。

次いで、愛媛大学大学院理工学研究科全准教授から「ME 講座の内容と今後の展開」と題して、実施地域の拡大や新技術導入の勉強会などの人材育成と技術移転の両輪で進めていくことについて説明がありました。

最後に受講生や愛媛大学教員ら参加者全員で記念撮影を行い、地域のインフラを守る決意を新たにし、閉会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター 愛媛大学大学院理工学研究科

日 時：2017 年 3 月 8 日（水）16：00～17：00

場 所：愛媛大学 社会連携推進機構 2 階研修室

参加者：50 名

プログラム

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部龍一

報告：国土交通省登録資格認定の報告および資格の活用について

愛媛大学大学院理工学研究科 教授 森脇 亮

話題提供：ME 講座の内容と今後の展開

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 全 邦釘



矢田部センター長の挨拶



全准教授の講演

2.9 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）

本年度は、30件のメルマガ配信を行いました。3月末時点の登録者数は、1,101名です。
 メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーも
 センターHPで公開しています。
 防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

発行日	号	タイトル
2016.4.11	411	<ご案内>学術講演会の開催について
2016.4.13	412	<ご挨拶> 退任挨拶 元・防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦 <ご挨拶> 着任挨拶 防災情報研究センター助教 小野 悠
2016.4.18	413	<ご案内>在ネパール日本国大使館特命全権大使小川正史氏の特別講演会及び 防災情報研究センター平成27年度活動報告会の開催について
2016.4.19	414	<ご案内>平成28年熊本地震被害調査報告会の開催について
2016.5.2	415	<ご案内>公開講座「防災士養成講座」の受講者募集について
2016.5.30	416	<ご案内>愛媛大学防災情報研究センター特別講演会の開催について
2016.6.2	417	<ご案内>防災セミナーin西予市の開催について
2016.6.14	418	<ご案内>アーバンデザイン研究会「アフリカ都市文化から学ぶ」の開催について
2016.6.21	419	<ご案内>防災情報研究センター特別講演会(6月20日開催)のCPD証明について
2016.7.14	420	<ご案内>愛媛大学公開講座「防災士養成講座」の追加募集について
2016.7.21	421	<ご報告>松山アーバンデザインセンターが「まちなか広場賞」で「大賞」を受賞しました
2016.7.21	422	<ご案内>アジア地域防災情報共有講演会の開催について
2016.7.22	423	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2016.7.28	424	<ご案内>平成28年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の開講について
2016.9.1	425	<お知らせ>戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 課題「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」に採択されました (研究責任者:全 邦釘准教授)
2016.9.7	426	<ご案内>日中植林・植樹国際連帯事業「ネパール青少年招へい事業」開催について
2016.9.29	427	<ご案内>インフラ建設マネジメント講演会の開催について
2016.10.6	428	<ご案内>国立大学協会「防災・日本再生シンポジウム」の開催について 大規模地震災害に学ぶ事前復興デザインー南海トラフ巨大地震に備えるー
2016.11.10	429	<ご報告>防災情報研究センターの矢田部龍一教授とネトラ・バンダリ准教授が International Consortium on Geo-disaster Reductionの「Outstanding Paper of Year 2015」を受賞しました
2016.12.2	430	<ご案内>インフラメンテナンス新技術勉強会開催について
2016.12.7	431	<ご案内>社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座シンポジウムの開催について
2016.12.8	432	<ご案内>防災講演会「地震防災を目的とした地盤情報の利活用」の開催について
2016.12.20	433	<ご案内>(第2回)インフラメンテナンス新技術勉強会開催について
2017.1.12	434	<ご案内>糸魚川市駅北大火の調査報告会開催について
2017.1.27	435	<開催報告>糸魚川市駅北大火の調査報告会を開催しました
2017.2.8	436	<ご案内>愛媛大学サテライトオフィス「ネパール地震復興デザインセンター」 活動報告会～ネパールの防災計画支援に向けて～の開催について
2017.2.20	437	<ご案内>矢田部龍一先生の最終講義の開催について
2017.2.22	438	<ご報告>平成28年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の報告書をHPに アップしました
2017.3.1	439	<ご案内>国土交通省登録資格「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」認定報告会開催に ついて
2017.3.13	440	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について

3. センターが受け入れた研究活動

3.1 受託研究

(1) 地下水流動解析調査（重信川下流域）に伴うボーリング調査

（契約先：松山市，研究者：森脇・藤森，契約金額：6,361,146 円）

内容：重信川下流の堤内地及び河道内において，現場透水試験を含むボーリング調査や 1 年間連続した地下水の水位観測等を行い，地下水流動解析調査に費用なデータ収集を行う。

(2) 地下水流動解析調査（重信川下流域）に伴う検証

（契約先：松山市，研究者：小林・泉，契約金額：1,992,751 円）

内容：重信川下流域において，松山市が業務委託で行う解析調査と並行し，流量観測等の補足調査を行うとともに，これらの調査結果を踏まえた検証を行う。

(3) 地理空間情報と環境情報を活用した災害避難共助支援による減災力向上に関する研究開発

（契約先：四国総合通信局，研究者：二神，契約金額：813,800 円）

内容：南海トラフ巨大地震によって生じる地震災害や津波被害に対して，共助・自助による減災力向上することを目的として，地域住民による災害避難計画の立案を支援する。さらにその結果を住民どうしで共有するためのクラウドシステムを開発し，実践する。また，環境および防災教育用教材を充実し，住民によるハザードマップ作りや，まち作りコミュニティ活動等を支援する機能を開発することによって，平時から使えるシステムとする。

(4) 市町村ニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発

（契約先：国土技術政策総合研究所，研究者：全，契約金額：9,190,800 円）

内容：市町村の橋梁点検において課題となっている狭小橋梁の点検に伴う交通規制，および点検時の損傷見落とし等に対して，通行規制を伴わない近接装置および点検支援システムの開発を行う。

(5) 戦略的イノベーション創造プログラム

（契約先：科学技術振興機構，研究者：全，契約金額：7,235,000 円）

内容：愛媛県の近接目視点検結果を収集し，データベースを構築する。また，SIP で開発されている近赤外線カメラによるコンクリートの表面状態の計測および表層品質調査などを愛媛県内の損傷が激しく進行している橋梁で行い，アセットマネジメントシステムに必要な材料・環境パラメータを算出できるか，試験的な検討を行う。また，愛媛県内の自治体のヒアリングを通して地域のニーズの洗い出しを行い，その結果等から，実装・運用に対して積極的に協力していただける自治体の候補を見出しておく。

(6) 平成 28 年度水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価

(契約先：四国地方整備局，研究者：矢田部，契約金額：2,797,200 円)

内容：瀬切れ発生の状況把握を行うとともに、瀬切れのおよぼす水域生物への影響について、生態系や水質の側面から検討を行うものである。また、瀬切れの期間・区間の拡大が魚類等水域生物に与える影響を緩和するための方策（孤立淵の創出）について、その効果予測を行うものである。

(7) 平成 28 年度肱川管理方策検討業務

(契約先：大洲河川国道事務所，研究者：門田，契約金額：3,628,800 円)

内容：今後の河川管理の高度化に資するために、洪水中の河床変動をコントロールする方法として、他の河川で有効性が報告されているハイドロバリア水制について、肱川への適用性の詳細検討を行うとともに、現地での試行を行うものである。

3.2 受託事業

(1) 平成 28 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業

(契約先：文部科学省，研究者：矢田部，契約金額：16,880,254 円)

内容：産学官の連携した取組により、専門人材養成を戦略的に推進するため、成長分野等における取組を先導する産学官連携コンソーシアムを組織化し、中核的専門人材及び高度人材養成のための新たな学習システムを検討し、産学官で共有するとともに、職域プロジェクト等において、全国的な標準モデルカリキュラムやその達成度評価手法、各地域の人材ニーズに対応した教育プログラム等を開発・実証する。

(2) 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）

(契約先：科学技術振興機構，研究者：ネトラ P バンダリ，契約金額：4,337,775 円)

内容：アジア地域の青少年の日本の最先端の科学技術への関心を高め、もって日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成に貢献することを目的として、産学官の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深める機会を提供するため行う。

(3) 2016 年度青年研修「マレーシア防災」コース

(契約先：国際協力機構，研究者：ネトラ P バンダリ，契約金額：2,712,000 円)

内容：青年研修事業は、我が国が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、各国の青年リーダー層を対象に、日本における専門分野の経験、技術を理解する基礎的な研修を実施することにより、対象国の国づくりを担う若手人材の知識、意識を向上させることを目的とする事業である。

(4) 松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務委託

(契約先：松山市，研究者：曲田・松本・小野，契約金額：15,692,400 円)

内容：中心市街地の低未利用地を転用し，整備を行ったまちなか交流施設にて，地元商店街等との連携によるまちなかの回遊性を高めるプログラムや，民間等との連携による持続可能な維持管理・運営のしくみを試行することによって，まちの活性化および賑わい再生に向けた効果的な仕組みを検証するとともに，今後の中心市街地における居住環境改善等についての検証・検討を行う。

(5) 茅ヶ崎市浜竹 1 丁目及び荒川区町屋 4 丁目におけるみどりの延焼抑制・遅延効果検証作業

(契約先：都市緑化機構，研究者：二神，契約金額：4,989,600 円)

内容：神奈川県茅ヶ崎市浜竹 1 丁目及び荒川区町屋 4 丁目におけるみどりの延焼抑制・遅延効果の検証に係るシミュレーションを実施する。

3.3 共同研究

(1) マルチチャンネルアンテナによる含水比マッピング技術の確立

(契約先：カナン地質株式会社，研究者：全，契約金額：1,980,000 円)

内容：マルチチャンネルアンテナを用いた含水比測定と種々の効率化を目的とする。CMP 法により得られる比誘電率から含水比を測定し，他手法との比較・校正による含水比測定の高精度化。アンテナ搭載車にて効率的探査を行うためのパラメータ検査。(取得時間，走査速度，共通中点数，チャンネル数等)

3.4 寄附金

(1) 寄附講座アーバンデザイン研究部門

(契約先：松山市都市再生協議会，助成金額：90,000,000 円)

設置期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

(2) その他

株式会社シアテック，日本プロテクト株式会社，株式会社愛媛建設コンサルタント，愛媛県建設技術支援センター

4. センター教員による研究・地域貢献活動

矢田部 龍一

社会貢献活動：

1. H28.4.1, 国土強靱化を担う土木技術者たれ：第一コンサルタンツ特別講演：南国市サザンシティホテル：100 名
2. H28.4.22, 熊本地震被害の調査概要：愛媛大学防災情報研究センター報告会：愛媛大学社会連携推進機構：40 名
3. H28.5.7, ネパールにおけるソフト防災対策の展開：愛媛大学防災情報研究センターネパール地震報告会：ネパール・ヒマラヤホテル：80 名
4. H28.6.6, 南海トラフ巨大地震に備える：愛媛労働基準協会新居浜支部：新居浜市市民文化センター中ホール：200 名
5. H28.6.20, ネパール・ゴルカ地震被害と日ネ防災連携の推進：愛媛大学南加記念ホール：150 名
6. H28.6.23, 平成 28 年熊本地震被害概要：愛媛県ジオファイバー協会：松山全日空ホテル：
7. H28.6.26, 大規模自然災害に備える：新居浜市惣開小学校：800 名
8. H28.7.1, 防災マップを作ろう：大洲市長浜小学校：長浜小学校体育館：60 名
9. H28.10.27, ネパールゴルカ地震の概要と日本とネパールの防災連携強化への取り組み：（一財）災害科学研究所：大阪大学中之島センター：100 名
10. H28.10.30, 大規模自然災害に向けた学校と家庭と地域の役割：長浜小学校：150 名
11. H28.10.31, 西条市防災教育推進連絡協議会「学校避難所運営」：西条市教育委員会：西条市東予総合福祉センター：50 名
12. H28.11.8, 今治市防災教育推進連絡協議会「学校避難所運営」：今治市教育委員会：今治市総合福祉センター：100 名
13. H28.11.14, 鬼北町防災教育推進連絡協議会「学校避難所運営」：鬼北町教育委員会：鬼北町中央公民館：25 名
14. H28.11.18, 大洲市防災教育推進連絡協議会「学校避難所運営」：大洲市教育委員会：大洲市肱南公民館：40 名
15. H28.11.23, 松山市防災士シンポジウム「老若男女みんなで考える避難所運営」コーディネーター：松山市：松山コミュニティセンター・キャメリアホール：1000 名
16. H28.11.25, 宇和島市防災教育推進連絡協議会「学校避難所運営」：宇和島市教育委員会：宇和島市庁舎 2 階大会議室：80 名
17. H28.11.28, 松山市防災教育推進連絡協議会「学校避難所運営」：松山市教育委員会：松山市教育研修センター：120 名
18. H28.12.16, えひめ自助・共助推進大会パネルディカッションコーディネーター：愛媛県県民文化会館中ホール：700 名
19. H29.1.12, 環境・治水教育の戦略的推進を通じた安全安心川づくりの基盤造成：河川防災情報センター：サンポート高松：150 名
20. H29.1.19, 防災情報研究センターの取り組みと私どもの暮らし：愛媛大学社会連携推進機構：愛媛大

学南加記念ホール：100名

21. H29.1.23, 南海トラフ巨大地震と学校の避難所運営：四国中央市教育委員会：四国中央市消防防災センター：60名
22. H29.2.15, 災害を乗り越えて：水産業の今、そして未来、パネリスト：国立研究開発法人科学技術振興機構：東日本大震災復興支援事業・全国水産系研究者フォーラム：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING：150名
23. H29.2.19, 南海トラフ地震に備えてー大転換期を生き切るー：ウェルピア伊予：200名
24. H29.2.23, 災害に対する体育施設の役割：日本体育施設協会&四国4県体育施設協会：にぎたつ会館：60名
25. H29.3.3, ネパール地震復興デザインセンターの設置：愛媛大学サテライトオフィス「ネパール地震復興デザインセンター」活動報告会～ネパールの防災計画支援に向けて～：愛媛大学防災情報研究センター：愛媛大学社会連携推進機構研修室：40名
26. 国土交通省四国地方整備局重信川学識者会議委員
27. 国土交通省四国地方整備局四国地方整備局道路防災有識者
28. 国土交通省四国地方整備局山鳥坂ダム工事事務所鹿野川ダム施工技術向上委員会委員長
29. 愛媛県防災会議委員
30. 愛媛県環境審議会副会長
31. 愛媛県環境影響評価審査会委員
32. 愛媛県教育委員会学校防災アドバイザー
33. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会委員
34. 松山市下水道事業経営審議会副会長
35. 松山市都市再生協議会会長
36. 松山市土壤汚染対策専門委員
37. 松山市石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会委員長
38. 松山市石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会会長
39. 大洲市大洲城跡石垣保存修復委員会委員
40. 愛南町愛南町防災教育連携協力協議会副会長
41. 愛南町愛南町防災教育推進懇談会委員
42. 独立行政法人国際協力機構 ハサヌディン大学工学部研究・連携基盤強化プロジェクトに係る国内支援委員会委員
43. 日本建設機械施工協会四国支部運営委員
44. 公益財団法人大亀スポーツ振興財団評議員
45. 特定非営利活動法人愛媛県建設技術支援センター理事
46. NPO 日本環境土木工業会えひめ支部支部長
47. 財団法人防災研究協会非常勤研究員
48. 重信川の自然をはぐくむ会会長
49. H28.10, 「Outstanding Paper of Year 2015」, International Consortium on Geo-disaster Reduction

論文・研究発表：

1. Rachman, Netra, Yatabe : Performance of frequency ratio and logistic regression model in creating GIS based landslides susceptibility map at Lompobattang Mountain, Indonesia, Geoenvironmental Disasters, 2016, DOI 10.1186/s40677-016-0053-x, Springer
2. Netra, Okamura, Yatabe : Damage to tall buildings in Kathmandu Valley during the 2015 Nepal Earthquake and its relation with the ground conditions : 公社土木学会四国支部&京大防災研究所 : 21 世紀の南海地震と防災, 第 11 巻 : 平成 29 年 1 月
3. 矢田部, 二神, ネットラ : 組織連携による継続的で自律的な防災人材育成プログラム : 公社土木学会四国支部&京大防災研究所 : 21 世紀の南海地震と防災, 第 11 巻 : 平成 29 年 1 月

吉井 稔雄

社会貢献活動：

1. 交通工学研究発表会 査読委員, 2007-
2. 都市計画学会中国四国支部 幹事, 2013-
3. 交通工学研究会自主研究 交通事故リスクマネジメントに関する研究 委員長, 2015-
4. 土木計画学研究委員会 大会運営委員会 委員長, 2016-
5. 松山市 都市計画審議会 会長, 2014-
6. 愛媛県 都市計画審議会 委員, 2013-
7. 阪神高速道路株式会社 交通技術委員会 幹事, 2013-
8. 株式会社 高速道路総合技術研究所 高速道路ネットワークシミュレーションモデルの構築検討委員会 委員, 2013-
9. 国土交通省 社会資本整備審議会 専門委員, 2012-
10. 愛媛県 愛媛県自転車安全利用研究協議会 構成員, 2014-
11. 松山市都市再生協議会 委員, 2014-
12. 愛媛県公共事業評価委員会 委員, 2015-
13. 松山市駅周辺地区における公共空間のあり方検討業務委託選考委員会 有識者, 2015
14. 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 副会長, 2015-
15. 愛媛県道路交通環境安全推進アドバイザー会議 委員, 2016-
16. 新居浜駅周辺まちづくり協議会 委員長, 2016-
17. 愛媛県高規格道路等利活用検討会 委員長, 2016-
18. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 委員, 2016-17
19. 松山空港アクセス向上検討会 委員/幹事長, 2015-
20. 愛媛県土地利用審査会 委員 2013-
21. 愛媛県渋滞対策協議会 議員 2016-

論文・研究発表：

1. 兵頭知, 吉井稔雄 : センサス道路における時間帯交通量別交通事故リスク分析, 土木学会論文集 D3, Vol. 72, No.5, pp.I_1283-I_1291, 2016.12
2. 兵頭知, 吉井稔雄, 倉内慎也 : 一般国道における事故リスク原単位の検討, 土木学会論文集 D3,

Vol. 72, No.5, pp.I_1293-I_1299, 2016.12

3. 白柳洋俊, 吉井稔雄, 兵頭知, 渡辺駿一: サグ認知における注意の解放効果, 交通工学論文集 (特集号) 第3巻2号, 2017年2月
4. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 藤井浩史, 河野侑奈: Bluetooth スキャナの指向性と設置位置を考慮した MAC アドレスの検知確率推定モデル, 交通工学論文集 (特集号) 第3巻2号, 2017年2月
5. 稲富貴久・割田博・桑原雅夫・吉井稔雄: 首都高速道路における大規模イベント開催時を対象とした集計 QK を用いた流入制御に関する研究, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
6. 松下聖史・兵頭知・吉井稔雄・大宮清英: 連続運転時間が運転挙動に与える影響分析, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
7. 倉内慎也・吉井稔雄・横地和彦: 四国の高速道路ネットワークの延伸が物流に及ぼす影響の基礎的分析, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
8. 吉井稔雄・倉内慎也・白柳洋俊・村上和宏: 事故リスク情報提供による社会的便益に関する考察, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
9. 尾高慎二・吉井稔雄・神戸信人: 生活道路における交通事故リスクに関する基礎的研究, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
10. 兵頭知・吉井稔雄・柴崎宏武・白柳洋俊: 沿道状況に着目した主要道路における事故リスク分析, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
11. 西内裕晶・吉井稔雄・大藤武彦・小澤友記子・塩見康博: 新潟市内道路網における交通事故発生リスク情報提供に向けた統合データベースの構築とその活用, 第53回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2016.5.28-29.
12. 白柳洋俊, 吉井稔雄, 兵頭知: サグ認知における注意の解放効果, 第36回交通工学研究発表会論文報告集, CD-ROM, 2016.8.8
13. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 藤井浩史, 河野侑奈: Bluetooth スキャナの指向性と設置位置を考慮した MAC アドレスの検知確率推定モデル, 第36回交通工学研究発表会論文報告集, CD-ROM, 2016.8.9
14. 兵頭知, 吉井稔雄: 交通流状態に着目した日仏高速道路における事故発生リスクの比較分析, 第36回交通工学研究発表会論文報告集, CD-ROM, 2016.8.9

二神 透

社会貢献活動:

1. 2016.6.4~6.5, 防災リーダーの取り組みについて～行政関係者との連携を核として～: 燧灘防災会 第4回総会: 燧灘防災会: ホテルグランフォーレ 2階大会議室:
2. 2016.6.19, 地域での防災に関する講話: 防災講演会: 内子東自治センター: 内子東自治センタートレーニング室:
3. 2016.6.26, 地域住民がみんなで考える明浜地区の津波避難マップづくり: 防災セミナーin 西予市: 愛媛大学防災情報研究センター・西予市: 明浜中学校体育館:
4. 2016.6.30, 菊間中学校防災学習会: 今治市立菊間中学校: 今治市立菊間中学校体育館:

5. 2016.7.6,「風水害と対策」「地震のしくみと被害」:平成 28 年度愛媛県防災士養成講座:愛媛県:愛媛県庁:
6. 2016.7.27,愛媛県の防災対策,大規模災害時における産業看護職の役割について:愛媛産業看護研究会 保健師・看護師研修:愛媛産業看護研究会:愛媛県林業会館 3 階大ホール:15 名
7. 2016.7.29,「地域で起こりうる災害から命を守る ～自助・共助による減災計画～」:菊間小中学校 防災研修会:今治市立菊間小学校:菊間小学校 視聴覚室
8. 2016.7.30,「風水害と対策」「地震のしくみと被害」:平成 28 年度愛媛県防災士養成講座:愛媛県:愛媛県南予地方局:
9. 2016.8.10,「風水害と対策」「地震のしくみと被害」:平成 28 年度愛媛県防災士養成講座:愛媛県:愛媛文教会館:
10. 2016.8.10,「社会教育特論」地域における防災教育:平成 28 年度社会教育主事講習:愛媛大学:愛媛大学愛大ミューズ 3F M32 講義室:30 名
11. 2016.8.30,「南海トラフ巨大地震・活断層型地震・土砂災害と BCP(事業継続計画)について」:平成 28 年度東予老人福祉施設協議会事務職員研修会:特別養護老人ホームきぼうの苑:愛媛県総合科学博物館第 1 研修室:
12. 2016.9.9,地域で助け合う仕組みづくりを考えよう:シニア対象講座「もしも」に備える!～地域防災は,私たちの手で～:(公財)松山市男女共同参画推進財団:松山市男女共同参画推進センター・コムズ:
13. 2016.10.5,「リスクにどう備え,会社を守るか」～南海トラフ地震の可能性～:経営力を高める BCP セミナー:松山商工会議所:松山商工会議所 5 階大ホール:
14. 2016.10.8,「風水害と対策」「地震のしくみと被害」:平成 28 年度愛媛県防災士養成講座:愛媛県:四国中央市消防防災センター:
15. 2016.10.14,防災,減災のための方法,自助・共助について学年の発達段階に応じて防災意識を高めることができるようにする:防災教育参観日:今治市立菊間小学校:菊間小学校体育館:154 名
16. 2016.11.2,「地震火災シミュレーション」:平成 28 年度消防実務講習会:松山市消防局:松山市保健所・消防合同庁舎 6 階大会議室
17. 2016.11.10,「荏原地区での地震被害や防災について」:松山市立荏原小学校 4 年生総合的な学習:松山市立荏原小学校:松山市立荏原小学校マルチパーパスルーム:小学校 4 年生 79 名,教員 4 名
18. 2016.11.14,「防災「地震・土砂災害対策」」:第 49 回(平成 28 年度)警防科:愛媛県消防学校:愛媛県消防学校 小教室:警防科訓練生 17 名
19. 2016.11.16,「今治市で起こりうる自然災害と命を守るための備え」:第 23 回市民医学講座:今治市医師会:今治国際ホテル
20. 2016.11.22,「防災拠点としての学校の役割について」:平成 28 年度南予管内公立小中学校事務研修会:南予教育事務所:愛媛県南予地方局庁舎:130 名
21. 2016.11.26,「風水害と対策」「地震のしくみと被害」:平成 28 年度愛媛県防災士養成講座:愛媛県:御荘文化センター:
22. 2016.12.3,「風水害と対策」「地震のしくみと被害」:平成 28 年度愛媛県防災士養成講座:愛媛県:愛媛県東予地方局:

23. 2016.12.4, 東雲地区自主防災地区連合会防災訓練：東雲地区自主防災会連合会：東雲小学校・東中学校体育館・グラウンド
24. 2016.12.10, 「風水害と対策」「地震のしくみと被害」：平成 28 年度愛媛県防災士養成講座：愛媛県：今治市総合福祉センター：
25. 2017.1.14, 「南海トラフ大地震に何を備え, どう生き抜くか」：災害から命を守る講演会：JP 労組四国地方本部：奥道後壺湯の森：70 名
26. 2017.1.21, 「防災意識の大切さ ～リスクコミュニケーション～」 「楽しく防災を学ぼう！（クロスロード）」：平成 28 年度災害ボランティア養成講座：社会福祉法人松山市社会福祉協議会：松山市総合福祉センター5 階中会議室：30 名
27. 2017.1.21, 「南海トラフ巨大地震に備える～かけがえのない命のために～」：平成 28 年度全国自治体病院協議会愛媛県支部研修会：全国自治体病院協議会：愛媛県立中央病院診療棟 3 階カンファレンス会議室：80 名
28. 2017.1.28, 「南海トラフ巨大地震への心構え」：地域・企業連携南海トラフ地震減災対策事業：愛媛県東予地方局：西条市大新田集会所：
29. 2017.2.3, 「松山市への教訓」：糸魚川市調査報告研修会：松山市消防局：松山市保健所・消防合同庁舎 6 階防災大会議室：50 名
30. 2017.2.5, 「地域防災について」：伊予市婦人防火クラブ連絡協議会：伊予市婦人防火クラブ連絡協議会：ウェルピア伊予：
31. 2017.2.15, 「熊本地震の被害状況と防災・減災への取組」：愛媛経済同友会講演会：愛媛経済同友会：伊予鉄会館 5 階ブリリアントルーム：40 名
32. 2017.2.18, 「南海トラフ巨大地震への備え」：全構協四国青年部連絡協議会 第 75 回定例会：(協)愛媛県鐵構工業会 青年部：ネストホテル松山：
33. 2017.2.19, 「ワークショップ（防災士・自主防災組織・自治会の活動等の分析）」 「ワークショップ（防災士・自主防災組織・自治会の現状と役割について）」 「グループ討議」：平成 28 年度えひめ防災インストラクター養成講習会：愛媛県：東予地方局 7 階大会議室：50 名
34. 2017.2.26, 「ワークショップ（防災士・自主防災組織・自治会の活動等の分析）」 「ワークショップ（防災士・自主防災組織・自治会の現状と役割について）」 「グループ討議」：平成 28 年度えひめ防災インストラクター養成講習会：愛媛県：中予地方局 6 階第 2 会議室：50 名
35. 2017.3.5, 「ワークショップ（防災士・自主防災組織・自治会の活動等の分析）」 「ワークショップ（防災士・自主防災組織・自治会の現状と役割について）」 「グループ討議」：平成 28 年度えひめ防災インストラクター養成講習会：愛媛県：南予地方局 7 階第 2 会議室：50 名
36. 2017.3.14, 「防災「気象と災害, 地震対策」」：第 1 回（平成 28 年度）特別教育「大規模災害対策講習」：愛媛県消防学校：愛媛県消防学校：26 名
37. 上島町防災会議委員：上島町
38. 愛媛県国土利用計画審議会 委員：愛媛県
39. 河川整備計画専門委員会 委員：愛媛県
40. 学校防災アドバイザー：愛媛県
41. 松山市防災会議委員：松山市

42. 平成 28 年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の実践委員会委員：今治市
43. 愛媛県消防学校の機能拡充に向けた調査検討委員会委員：愛媛県
44. 平成 28 年度学校防災教育推進委員会委員：愛媛県
45. 地域・企業連携南海トラフ地震減災対策事業（西条市大新田地区）の実施に係るアドバイザー：愛媛県
46. 平成 28 年度災害に強いまちづくり検討委員会委員：四国地方整備局
47. 番組審議会委員：あいテレビ

論文・研究発表：

1. 二神透，羽鳥剛史，“大学における防災資格希望者の防災意向分析”，土木学会論文集 F6（安全問題），安全問題・論文集，Vol.11 CD-ROM6 頁（2016 年 11 月 30 日）
2. 鳥越昭彦，二神透，手代木純，森口俊宏，菅原のえみ，“市街地火災におけるみどりの防火効果の検証手法の検討”，ランドスケープ研究増刊 技術報告集 2017.
3. 井出皓介，二神透，狩野涼介，“防災士取得者の意識要因分析～松山市を対象として～”，平成 28 年度四国支部技術研究発表会（高知県香美市土佐山田町高知工科大学）（2016 年 5 月 28 日）
4. 今西桃子，二神透，羽鳥剛史，“地域防災リーダー指向者の意識分析”，土木計画学春大会（札幌市北海道大学）（2016 年 5 月 29 日）
5. 今西桃子，二神透，羽鳥剛史，井手，“地域防災リーダー指向者の防災活動参加意向に対する規定要因の分析”，土木計画学秋大会（長崎市長崎大学）（2016 年 11 月 5 日）
6. 二神透，國方祐希，“防火樹木を用いた地震火災対策の評価に関する研究”，土木計画学秋大会（長崎市長崎大学）（2016 年 11 月 5 日）

相引 眞幸

社会貢献活動：

1. 2016.3.19 Past, Present and Future of TH and TTM for Post-Cardiac Arrest Syndrome : Seoul, North Kores : St. Mary's Hospital Memorial Symposium : 特別講演
2. 2016.6.11-14 Is Coagulopathy an appropriate Therapeutic Target during Severe Sepsis? : Austin, TX, UAS. : 39th US Shock Meeting : 講演 pro-con debate
3. 2016.11.14 Target Temperature Management (TTM) for Post-Arrest Patients after 2015 ILCOR CoSTR -Cooling Methods, Controversies and Protocol- : Kuala Lumpur, Malaysia. : Special Lecture at the National Institute of the Heart of Malaysia : 特別講演
4. 2016.11.14 Target Temperature Management (TTM) for Brain Injuries (TBI and post-cardiac arrest syndrome) : Kuala Lumpur, Malaysia. : Special Lecture at the Pusat Perubatan National University of Malaysia : 特別講演
5. 2016.11.15 Target Temperature Management (TTM) for Brain Injuries : Kuala Lumpur, Malaysia. : Special Lecture at the Sungai Buloh National Hospital of Malaysia : 特別講演

6. 2016.11.16 Target Temperature Management (TTM) for Post-cardiac arrest syndrome : Kuala Lumpur, Malaysia. : Special Lecture at the Kuala Lumpur National Hospital of Malaysia : 特別講演

論文・研究発表：

1. 相引眞幸：私が最も影響を受けた論文：ICU と CCU : 513-515 : 40 : 2016
2. Aibiki M, Chiang MC, Muengtawepong S, Pothiwala S, Huang CH. : Asian Targeted Temperature Management Task Panel Report. : Ther Hypothermia Temp Manag. : 26-27 : 5 : 2016
3. 相引眞幸：英会話雑感：救急医学：13-14 : 40 : 2016
4. 相引眞幸：熱中症：毎日新聞：NA : NA : 2016
5. 相引眞幸： “JRC CPR Guidelines 2015『救命救急・集中治療：エキスパートブック R35』：医事新報：10-17 : 56 : 2016
6. 相引眞幸：肺水腫：今日の治療指針：562 : 2016
7. 相引眞幸，松本紘典，大下宗亮，安念優，森山直紀：心停止後症候群治療の現状と展望：脳死、脳蘇生：45-48 : 15 : 2016
8. 坂本哲也，野々木宏，相引眞幸他：成人の2次救命処置，心停止後の集中治療：救急蘇生法の指針：1-220 : 2016
9. Mayuki Aibiki : Anti-Coagulation Therapy is an Appropriate Approach for Septic Disseminated Intravascular Coagulation (DIC). : Shock : ahead of print : 25 : 2016

木村 映善

論文・研究発表：

1. 木村 映善，松村 泰志，三原 直樹，et al. : 秘密分散技術を利用した医療情報の遠隔保存と参照環境の評価：電子情報通信学会論文誌 D. 2016 : J99-D(5), 526-38 : 2016/05/01
2. 渡邊 英伸，黒澤 隆，木村 映善，水原 隆道，村田 健史，建部 修見：広域分散ファイルシステムにおける UDT マルチストリームファイル転送ツール. : 電子情報通信学会論文誌 D. 2016 : J99-D, 514-25 : 2016/05/02
3. 濱田 浩気，木村 映善，菊池 亮，et al. : 秘密計算による分散医療統計システムの実装評価 : (情報通信マネジメント). 電子情報通信学会技術研究報告 2016, : 116・65, 111-7 : 2016/05/26
4. Kimura E, Nakai M, Ishihara K. : Evaluation of Efficiency Improvement in Vital Documentation Using RFID Devices. : Stud Health Technol Inform. 2016 : 225, 1042 : 2016/06
5. 木村 映善.: HIS のクラウド/仮想化技術が医療にもたらす可能性と今後の課題.: 月刊新医療. 2016 : 43(7), 29-31 : 2016/07
6. Eizen KIMURA, Koki HAMADA, Ryo KIKUCHI, et al. : Evaluation of Secure Computation in a Distributed Healthcare Setting. Stud Health Technol Inform. 2016 : 228, 152-6 : 2016/08
7. Yukio Kurihara, Haku Ishida, Eizen KIMURA, et al : The inequality of patient profile information in Japanese hospitals Stud Health Technol Inform. 2016 : 228, 412-5 : 2016/08

8. 木村 映善, 蒲生 祥子, 石原 謙: Stream Computing を医療情報システムに導入する試み: 第 43 回日本 M テクノロジー学会大会講演論文週. 2016: 11-6.2016/08/26
9. 栗原 幸男, 石田 博, 木村 映善, 入野 了士: 匿名化ヘルス情報の再特定化リスク除去の統計量への影響評価方法の検討: 医療情報学 36(Suppl)2016: 710-2: 2016/11
10. 木村 映善, 美馬 正司, 藤村 明子, 菊池 浩明, 千田 浩司, 佐久間 淳.: パーソナルデータの利活用は進むのか 〜ルールと保護技術の最前線: 医療情報学 36(Suppl). 2016: 208-10: 2016/11/22
11. 入野 了士, 木村 映善, 石田 博, 栗原 幸男: 健康診査実施機関における健診データの利活用と匿名化データの外部提供に関する調査研究: 医療情報学 36(Suppl)2016: 1014-7 2016/11/23
12. 岡田 久仁子, 三浦 庸介, 蒲生 祥子, 中井 美穂, 木村 映善, 石原 謙: 電子カルテと即時連動するピクトグラムシステム構築の試み: 医療情報学 36(Suppl)2016: 1112-5.
13. 木村 映善, 高月 常光, 崔 ムン相, et al: 標準化されたデータソースを用いた SDM 構築: 医療情報学 36(Suppl)2016: 160-1.
14. 栗原 幸男, 石田 博, 木村 映善, et al: 病院情報システムにおける患者プロフィール情報項目の保有状況調査: 医療情報学 36(Suppl)2016: 1086-8: 2016/11/23
15. 蒲生 祥子, 木村 映善, 石原 謙.: 患者基本プロフィールのアレルギー項目の用語集編成に関する検討: 医療情報学 36(Suppl) 2016: 846-8.
16. 木村 映善: 医療情報システム編: 一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会 医療情報 第 5 版: 篠原出版新社: 2016.

加藤 匡宏

論文・研究発表:

1. 田村優佳, 加藤匡宏, 宇治田直樹, 川本昇平 集中内観法による少年院在院者の変化に関する考察
矯正教育研究 61. pp113-121 2016 年 3 月

松尾 芳雄

社会貢献活動:

1. 農業農村工学会支部担当理事, 中国四国支部長, 学会誌担当理事, 学会誌編集委員会専門委員
2. 農業農村工学会農村計画研究部会顧問
3. 農業農村工学会農業農村情報研究部会運営幹事
4. 農林水産省中国四国農政局「道前道後平野地域環境検討委員会」委員
5. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
6. 愛媛県中山間ふるさと保全対策推進委員会委員長
7. 愛媛県農村環境保全向上活動検討委員会委員長
8. 愛媛県環境情報協議会委員長
9. 愛媛県日本型直接支払検討委員会会長
10. 四国防災教育センター専門家養成事業外部評価委員会委員

論文・研究発表：

1. 松尾芳雄：第4章第2節棚田地域の持続と保全：愛媛県松野町教育委員会編集・刊行「松野町文化的景観調査報告書－奥内の棚田の文化的景観－」：113-115：2016・3

小林 範之

社会貢献活動：

1. 2016.10.23：「決壊のメカニズム」：三秋大池防災ワークショップ：愛媛県：伊予市保健センター：100名
2. 客員研究員：（財）日本水土総合研究所
3. 建設工事総合評価審査委員会：（委員）：愛媛県
4. 愛媛県農業水利施設保全対策検討会（アドバイザー）：愛媛県
5. 三秋大池ワークショップ（防災型）実行委員会（アドバイザー）：愛媛県
6. 史跡松山城整備検討委員会：（委員）：松山市
7. 宇和島城保存整備検討委員会：（委員）：宇和島市
8. 中国四国農政局管内国営造成干拓堤防技術検討委員会：農林水産省
9. 通谷調整池技術検討委員会：農林水産省
10. 長期供用ダム研究小委員会（専門委員）：農業農村工学会
11. 農業農村工学会材料施工部会：（幹事）：農業農村工学会
12. 日本雨水資源化システム学会：（理事）：日本雨水資源化システム学会
13. 日本雨水資源化システム学会編集委員会：（委員長）：日本雨水資源化システム学会
14. 地盤工学ジャーナル編集委員会：（副委員）：地盤工学会

論文・研究発表：

1. Izumi, T., Miyoshi, M., and Kobayashi, N.: Runoff analysis using a deep neural network: Proceedings of the 12th International Conference on Hydrosience & Engineering, 04-0002, 2016.
2. 小林範之：技術者教育プログラムによる地方創世推進事業の実施について：農業農村工学会：仙台市：2016年8月31日
3. 田中洋平，小林範之，木全 卓：三次元個別要素法による EPS 破砕片混合土が持つ衝撃吸収性の検討：農業農村工学会中国四国支部：松山市：2016年10月27日
4. 中島圭菜，小林範之：個別要素法を用いた農地石垣の安定性評価：農業農村工学会中国四国支部：松山市：2016年10月27日
5. 長井和樹，小林範之：SIS による浸透特性および遮水ゾーン位置の推定：農業農村工学会中国四国支部：松山市：2016年10月27日
6. 高須賀愛美，小林範之：Hilbert-Huang 変換を用いた地震時における堤体剛性の評価：農業農村工学会中国四国支部：松山市：2016年10月27日

氏家 勲

社会貢献活動：

1. 2016. 6. 15：四国版 フライアッシュを結合材として用いたコンクリートの配合設計・施工指針 本文：「四国版 フライアッシュを結合材として用いたコンクリートの配合設計・施工指針」及び「各種混和材料のコンクリートへの積極利用による高性能の付与」に関する講習会：土木学会四国支部：愛媛大学・メディアホール：55 名
2. 2016. 6. 30：四国版 フライアッシュを結合材として用いたコンクリートの配合設計・施工指針 本文：「四国版 フライアッシュを結合材として用いたコンクリートの配合設計・施工指針」及び「各種混和材料のコンクリートへの積極利用による高性能の付与」に関する講習会：土木学会四国支部：サンポートホール高松・61 会議室：68 名
3. 2016. 10. 6：骨材の品質と配合設計：「フェロニッケルスラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針」および 147 号「銅スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計施工指針」に関する講習会：土木学会四国支部：愛媛大学・南加記念ホール：
4. 2016. 10. 7：骨材の品質と配合設計：「フェロニッケルスラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針」および 147 号「銅スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計施工指針」に関する講習会：土木学会四国支部：パールガーデン・さぬき B：
5. 2016. 12. 2：非鉄スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計施工指針の改訂：平成 28 年度岡山県コンクリート工業組合技術研修会：岡山県コンクリート工業組合：岡山プラザホテル
6. 2016. 12. 15：骨材の品質と配合設計：「非鉄スラグ骨材（フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ細骨材）を用いたコンクリートの設計施工指針」に関する講習会：日本鉱業協会：大阪科学技術センター・401 号室
7. 2016. 6. 4：化学的侵食：2016 年度コンクリート診断士受験対策講座：高知県コンクリート診断士会：ポリテクセンター高知：28 名
8. コンクリート委員会常任委員：土木学会
9. コンクリート委員会規準関連小委員会委員：土木学会
10. 日本コンクリート工学会四国支部：幹事
11. 四国地方整備局総合評価委員会委員：国土交通省
12. 四国地方ダム等管理フォローアップ委員会：委員：国土交通省
13. 四国地方整備局ダム総合点検専門家：国土交通省
14. 四国地方整備局総合評価地域小委員会：委員：国土交通省
15. 建設工事総合評価審査委員：愛媛県
16. 橋梁長寿命化修繕計画評価員：愛媛県
17. 建設審議会委員：愛媛県
18. 総合評価審査員：松山市
19. 入札監視委員会委員：宇和島市
20. 入札監視委員会委員：伊方町
21. 愛媛県生コンクリート品質管理監査会議：議長：愛媛県生コンクリート工業組合
22. 性能評価業務評価員：全国鉄骨評価機構

23. 平成 28 年 6 月 20 日:功労賞:日本コンクリート工学会

論文・研究発表:

1. K. Kawaai&I. Ujike: Influence of bleeding on durability of horizontal steel bars in RC column specimen: Life-Cycle of Engineering Systems:Emphasis on Sustainable Civil Infrastrucuture: pp.839-846, 2016.10
2. ISAO UJIKE and KEIYU KAWAAI: A STUDY ON THE FACTORES AFFECTING ELECTRO-MIGRATION CHARACTERISTIC OF CHLORIDE IONS IN CONCRETE: Integrated Solutions for Infrastrucuture Development: pp.1-6: 2016.10
3. Putri, P.Y., Kawaai, K., Ujike, I. and Yamamoto, S.: Effect of Temperature on Precipitation Rate of Calcium Carbonate Produced through Microbial metabolic Process of Bio Materials: CIVIL ENGINEERING DIMENSION, Journal of Civil Engineering Science and Application: Vol 18, No2, pp.103-108 September (2016)
4. 村上賢晃, 氏家勲, 河合慶有: 自然環境課の表層コンクリートに対する透気試験を用いた耐久性能測定手法の適用可能性: コンクリート工学年次論文集: Vol38, No.1, pp.2007-2012, 2016
5. 岡田辰夫, 河合慶有, 氏家勲: コンクリート内部の損傷が電気抵抗率の分布に与える影響: コンクリート工学年次論文集: Vol38, No.1, pp.2193-2198, 2016
6. K. Kawaai&I. Ujike, S. Yamamoto & P.Y. Putri: Some considerations on precipitation rate of calcium carbonate in bio-based materials used for concrete repair: Concrete Solutions 2016 6th International Conference on Concrete Repair, pp.580-587, 2016.6
7. 山本沙也, 氏家勲, 河合慶有, Prima Yane Putri: バイオ材料の炭酸カルシウム析出課程に及ぼす温度の影響: 土木学会四国支部第22回技術研究発表会: 高知工科大学: H28年5月28日
8. 久保勇登, 氏家勲, 河合慶有: 銅スラグ細骨材を使用したコンクリートに対する品質評価図の適用可能性: 土木学会四国支部第22回技術研究発表会: 高知工科大学: H28年5月28日
9. 岡田辰夫, 氏家勲, 河合慶有, 喜多村征生: 電気抵抗率測定を用いたコンクリート内部欠陥の検知手法の実験的検討: 土木学会四国支部第22回技術研究発表会: 高知工科大学: H28年5月28日
10. 門屋朱里, 吉田大貴, 氏家勲, 河合慶有: 塩化物イオンの電気泳動特性に影響を及ぼす諸要因に関する検討: 土木学会四国支部第22回技術研究発表会: 高知工科大学: H28年5月28日
11. 仲井一平, 氏家勲, 河合慶有: フライアッシュの混和が配置高さの異なる水平鉄筋の腐食性状に与える影響: 土木学会四国支部第22回技術研究発表会: 高知工科大学: H28年5月28日
12. 村上賢晃, 立花賢, 氏家勲, 河合慶有: フライアッシュ及び非鉄スラグ細骨材を用いたコンクリートの乾燥収縮ひび割れ抵抗性: 日本材料学会四国支部第14回学術講演会: 愛媛大学: H28年4月23日
13. "Putri, P.Y., Kawaai, K., Ujike, I. and Yamamoto, S.: Effect of Temperature on Precipitation Rate of Calcium Carbonate Produced through Microbial metabolic Process of Bio Materials: International Conference on Sustainable Civil Engineering Structures

14. and Construction Materials: Bali, Indonesia, H28 年 9 月 5 日-7 日"

山下 祐一

社会貢献活動：

1. 2016.6：8.20 広島土砂災害の警戒避難及び熊本地震時の避難と今後の課題：第 5 回安全・安心な社会基盤に関する講習会：広島県測量設計業協会：広島市・広島県立体育館：52 名
2. 2016.7：東日本大震災 5 年後の実態と熊本地震：建設コンサルタント業務技術講習会：広島県測量設計業協会：広島市・広島県立体育館：100 名
3. 2016.7：熊本地震発生後の調査：平成 28 年度中国地方防災研究会第 1 回講演会：中国地方防災研究会：広島市・広島 YMCA 国際文化ホール：220 名
4. 2016.9：防災に関する講演・討論会「自然災害から人命を守るために」：地盤工学会：岡山市・岡山国際交流センター：150 名
5. 2016.10：松野町地震被害想定及び避難所運営・地区防災計画：松野町防災教育推進連絡協議会：松野町・山村開発町民センター：30 名
6. 2016.11：内子町の地震被害想定と地域連携について：内子町防災教育推進連絡協議会：内子町・五十崎自治センター：40 名
7. (公社)日本技術士会中国本部 幹事 防災委員会副委員長他
8. (公社)日本地すべり学会関西支部 代議員 (運営委員)
9. (公社)土木学会中国支部 支部活性化WG シニア担当委員
10. (公社)地盤工学会中国支部 マサ土地帯の土砂災害の調査・対策委員会 広島地域幹事
11. (公社)砂防学会中四国支部 副支部長
12. (一社)建設コンサルタンツ協会中国支部 防災委員会顧問
13. 中国地方防災研究会 幹事長
14. 愛媛県教育委員会 学校防災アドバイザー

論文・研究発表：

1. 山下祐一：自主防災会への土木技術者の技術的支援：土木学会：土木学会誌：第 101 巻第 9 号，pp46-47:2016.9
2. 山下祐一・森脇亮・全邦釘・吉井稔雄・矢田部龍一：社会基盤 ME 養成講座の改革と展開及びアンケート結果：土木学会四国支部：松山市：2017.5
3. 山下祐一・森脇亮・全邦釘・吉井稔雄・矢田部龍一：社会インフラ養成講座の改革とアンケート：土木学会中国支部：東広島市：2017.5
4. 山下祐一：8.20 広島土砂災害後の復興まちづくり支援：土木学会四国支部：松山市：2017.5
5. 山下祐一・増村浩子・尾崎則篤：土木学会中国支部シニア会の活動とアンケート結果：土木学会中国支部：東広島市：2017.5
6. 山下祐一・古川智：8.20 広島土砂災害後の復興まちづくり支援事例：砂防学会：奈良市：2017.5

森脇 亮

社会貢献活動：

1. 2016.7.7: Impact of Land Use Change on Urban Cloud Properties: Intensive Monitoring Network and Numerical Simulation: Dengue and Urban Climate Symposium: Ehime University and De La Salle University: De La Salle University, Taft Avenue, Manila
2. "2016.8.30: 太陽光パネルを用いた利用したスマートセンシングー都市気象の解明とゲリラ豪雨の予測に向けてー：今治経済クラブ 8 月例会講演：今治経済クラブ：今治商工会議所
3. 2017.3.8：国土交通省登録資格認定の報告および資格の活用について：国土交通省登録資格「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」認定報告会：愛媛大学
4. ダム管理フォローアップ委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
5. 堤防決壊に係る調査委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
6. リバーカウンセラー（国土交通省四国地方整備局）
7. 河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省四国地方整備局）
8. 四国地方整備局総合評価委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
9. 四国地方整備局総合評価地域小委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
10. 東予港フェリーターミナル事業に関する技術検討委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
11. 愛媛県地方港湾審議会：会長（愛媛県）
12. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（愛媛県）
13. 松山市総合評価審査員（松山市）
14. 松山市公営企業局総合評価審査員（松山市）
15. 「環境モデル都市まつやま」推進協議会運営委員会：委員長（松山市）
16. 山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会委員
17. 山鳥坂ダム工事事務所ダム事業費等監理委員会委員
18. 重信川流域学識者会議委員
19. 愛媛県廃棄物処理施設設置審査委員会委員

論文・研究発表：

1. "入川裕太・Deepak Bikram THAPA CHHETRI・重松和恵・藤森祥文・森脇亮, 高密気圧観測による局地気象のモニタリング
～晴天日及び局所降雨発生日の事例解析～, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.73, No.4, I_469-I_474, 2017."
2. 藤森 祥文・Sijapati SWEATA・都築 伸二・森脇 亮, 多地点太陽光パネルを用いた日射量の空間分布と全天カメラ雲分布の関係, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.73, No.4, I_475-I_480, 2017.
3. Deepak Bikram THAPA CHHETRI, Herlin VERINA, Yoshifumi FUJIMORI, and Ryo MORIWAKI, ANALYSIS OF LOCAL CLOUD PROPERTIES USING DOWNWARD SOLAR RADIATION DATASET FROM GEOSTATIONARY SATELLITE, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser.B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 73, No. 4, I_481-I_486, 2017.

4. Deepak Bikram THAPA CHHETRI, Yoshifumi FUJIMORI and Ryo MORIWAKI, LOCAL CLIMATE CLASSIFICATION AND URBAN HEAT/DRY ISLAND IN MATSUYAMA PLAIN, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser.B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 73, No. 4, I_487-I_492, 2017.
5. Sijapati S., Fujimori Y. & Moriwaki R. (2015). Impact of difference in landuse on cloud formation in Matsuyama plain, International Journal of Landslide and Environment, Vol 3, No. 1-3, 16-23 (Available online).
6. 平川晃司, 星川菜津美, 重松和恵, 都築伸二, 藤森祥文, 森脇亮:太陽光パネルから推定した松山平野における局所的な日射量分布:平成 28 年度土木学会四国支部第 22 回技術研究発表:高知工科大学:2016.05.28
7. 手嶋唯, 俊野和恵, 藤森祥文, 森脇亮:解析雨量を用いた松山平野における降水特性に関する研究:平成 28 年度土木学会四国支部第 22 回技術研究発表:高知工科大学:2016.05.28
8. ヘルリンフェリナ, 田中あゆみ, 入川裕太, 重松和恵, 藤森祥文, 森脇亮:晴天日の松山平野における海面気圧の地域特性:平成 28 年度土木学会四国支部第 22 回技術研究発表:高知工科大学:2016.05.28
9. 入川裕太, 重松和恵, 藤森祥文, 森脇亮:局所降雨時に見られた地上気圧の時空間特性:平成 28 年度土木学会四国支部第 22 回技術研究発表:高知工科大学:2016.05.28
10. 久保慶介, 川瀬久美子, 藤森祥文, 森脇亮:2015 年 7 月 9 日に松山市で発生した局地的集中豪雨による冠水被害の特徴:平成 28 年度土木学会四国支部第 22 回技術研究発表:高知工科大学:2016.05.28
11. 森脇 亮, スウェータ シジャパティ, 都築伸二, 太陽光パネルを用いた日射量稠密観測の可能性, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5 月 22-26 日, 幕張メッセ.
12. 藤森祥文, 都築伸二, 森脇亮:太陽光パネルによる日射量モニタリング手法の雲分布観測への適用:平成 28 年度日本太陽エネルギー学会研究発表会:松山:2016.11.25
13. Deepak Bikram Thapa Chhetri, Ryo Moriwaki:Temporal and Spatial Variation of Urban Cloud in Various Coastal Cities in Japan:44th Conference on Broadcast Meteorology:15 - 17 June 2016 Austin, TX

全 邦 釘

社会貢献活動:

1. 2016.12.14, インフラメンテナンス新技術勉強会, 「愛媛大学における SIP の取り組みと新技術勉強会の今後の方向性について」, 愛媛大学メディアホール, 72 名
2. 2017.1.6, インフラメンテナンス新技術勉強会, 「新技術勉強会とフィールド試験の今後の予定」, 愛媛大学防災情報研究センター, 75 名
3. 2017.1.6, 社会基盤メンテナンスエキスパート (ME)シンポジウム, 「愛媛大学の技術開発 (SIP) と人材育成の取り組み」, 愛媛大学南加記念ホール, 245 名
4. 2017.2.9, 平成 28 年度全国アセットマネジメント担当者会議, 「愛媛大学におけるインフラ維持管理の取り組み」, 愛媛県中予地方局, 111 名
5. 2017.3.8, 「四国社会基盤メンテナンスエキスパート」認定報告会, 「ME 講座の内容と今後の展開」, 愛媛大学防災情報研究センター, 50 名

6. 2017.3.22, 土木学会応用力学委員会若手研究者交流ワークショップ, 「人工知能技術に関する研究について」, JFE スチール株式会社 JFE 京浜ビル, 40 名
7. 四国地方整備局 路面性状を簡易に把握可能な新技術評価のための舗装 WG 委員
8. 土木学会 複合構造委員会 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会 委員
9. 四国地方整備局 四国地域橋梁管理委員会 委員
10. 四国地方整備局 四国建設業 B C P 等審査会 愛媛県審査部会員
11. 愛媛県 えひめ建設業 B C P 等審査会 委員
12. 愛媛県建設工事総合評価 審査委員
13. 土木学会 応用力学委員会 地区幹事
14. 土木学会 鋼構造委員会 構造物の長寿命化技術に関する検討小委員会 幹事・WG 長
15. JCI 四国支部 次世代のコンクリート構造物の劣化診断に関する特別研究委員会 委員

論文・研究発表：

1. 全 邦釘, 蔵本 直弥, 熊岡 幸司：多点同時計測と機械学習を用いた損傷同定手法の I 型断面はり部材への適用：土木学会論文集 A2：72(2), pp.I_623-I_631：2016
2. 橋爪 謙治, 橋本 和明, 全 邦釘, 中畑 和之, 石田 哲也：排水性舗装におけるポットホール発生リスクに関する定量分析：土木学会論文集 E1：72(3), pp. I_115-I_123：2016
3. C.N.N. Karina, Pang-jo Chun：Damage Detection of Corroded Steel Specimens by Using Machine Learning Approach：The 7th International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE) ICSBE/16/058：2016
4. C.N.N. Karina, Pang-jo Chun：Finite Element Analysis for Bridge due to Corrosion：The 7th International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE) ICSBE/16/058：2016
5. 全 邦釘, 蔵本 直弥, 熊岡 幸司：多点同時計測と機械学習を用いた損傷同定手法の I 型断面はり部材への適用：第 19 回応用力学シンポジウム：2016
6. 山下 祐一, 森脇 亮, 全 邦釘, 竹田 正彦, 吉井 稔雄, 矢田部 龍一：社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座のアンケート調査結果について：土木学会四国支部技術研究発表会：2016
7. 三島 和紀, 大賀 水田生, 全 邦釘：RCIW 構造において材料の不均質性が固有周期に与える影響：土木学会四国支部技術研究発表会：2016
8. 近藤 健一, 大賀 水田生, 川口 隆, 全 邦釘：鉄筋腐食した RC 桁の振動特性と FEM を用いたモデル化：土木学会四国支部技術研究発表会：2016
9. 佐久間 啓蔵, 大賀 水田生, 川口 隆, 全 邦釘：鉄筋腐食と载荷による損傷が RC はりの固有振動数に及ぼす影響：土木学会四国支部技術研究発表会：2016
10. 井後 敦史, 三輪 知寛, 大賀 水田生, 全 邦釘：Deep Learning を用いたコンクリート表面のひび割れ検出に関する基礎的研究：土木学会四国支部技術研究発表会：2016
11. 嶋本 ゆり, 大賀 水田生, 全 邦釘：二段階の決定木を用いたコンクリート表面のひび割れ検出手法の提案：土木学会四国支部技術研究発表会：2016
12. 秋山 大誠, 蔵本 直弥, 大賀 水田生, 全 邦釘：多点同時振動計測と機械学習を用いた損傷判定手法に関する研究：土木学会四国支部技術研究発表会：2016

13. 秋山 大誠, 真鍋 佑輔, 大賀 水田生, 川口 隆, 全 邦釘: 機械学習による腐食鋼板の残存強度評価手法の提案: 土木学会四国支部技術研究発表会: 2016

榊原 正幸

社会貢献活動:

1. 2016.10.25: 地域とともに輝く大学: 松山中央ライオンズクラブ講演会: 松山市・JALcity 松山: 約 90 名
2. 2016.11.27: 石積みレクチャー: うみ・さと・やまをつなぐ石積みの物語: 西予市・西予市明浜町: 約 20 名
3. 松山市文化財保護審議会: 松山市文化財保護審議会委員: 松山市教育委員会
4. 松山市土壌汚染対策専門委員会: 松山市土壌汚染対策専門委員: 松山市環境部環境指導課
5. 松山市環境審議会: 松山市環境審議会委員: 松山市環境部環境政策課
6. 西予市総合計画審議会: 西予市総合計画審議会委員: 西予市
7. 西予市文化的景観調査委員会: 西予市文化的景観調査委員会委員: 西予市教育員会
8. 平成 28 年度愛媛県立松山東高等学校スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業: SGH 事業課題研究講師: 愛媛県立松山東高等学校
9. 四国西予ジオパーク推進協議会アドバイザー: 四国西予ジオパーク推進協議会: 西予市
10. 日本地質学会第 124 年学術大会実行委員会: 日本地質学会第 124 年学術大会実行委員長: 日本地質学会
11. 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員
12. 西条市アカデミックアドバイザー委員会: 西条市アカデミックアドバイザー: 西条市
13. 2016.12.3: 第 16 回日本地質学会四国支部講演会「優秀講演賞」(共著; 榊原正幸研究室 Habo Abbas Hasriwiani 筆頭): 日本地質学会四国支部
14. 2016.12.3: 第 16 回日本地質学会四国支部講演会「優秀ポスター賞」(共著; Nurfitri Abdul Gafur 筆頭): 日本地質学会四国支部

論文・研究発表:

1. H. Prasetia., Sakakibara, M., Sueoka, Y. and Sera, K., Pteris cretica as a Potential Biomarker and Hyperaccumulator in an Abandoned Mine Site, Southwest Japan. *Environments*, 3(15) 10pp: DOI:10.3390/environments3030015, 2016.6.
2. Sueoka, Y., Sakakibara, M. and Ofuji, H., The impact of slag weathering on heavy metal pollution. *Proceeding of International Symposium Hanoi Geoengineering*, 262-267, 2016, 10.
3. Sueoka, Y., Sakakibara, M., Sano, S. and Yamamoto, Y., A New Method of Environmental Assessment and Monitoring of Cu, Zn, As, and Pb Pollution in Surface Soil Using Terricolous Fruticose Lichens. *Environments*, 3(35):13pp: doi:10.3390/environments3040035, 2016.12.
4. 榊原正幸・大川佳子・世良耕一郎 ファイトレメディエーション技術による休廃止鉱山廃水の浄化に関する実用可能性について. 第 22 回 NMCC 共同利用研究成果発表会, 2016 年 5 月 14 日, 盛岡市.

5. Kurniawan, I. A., Sakakibara, M., and Suparka, E. Petrological Studies of volcanic ash from Sakurajima volcano in 2013, Southern Kyushu, Japan. 2nd International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
6. Okazaki, K., Yamazaki, S., Kurahashi, T. and Sakakibara, M. An Artificial Channel Experiment for Purifying Drainage Water Containing Arsenic by Using *Eleocharis acicularis*. 2nd International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
7. Habo, H. A., Sakakibara, M., Hakim K. A. and Hardi, I. Y. Social Demography of Traditional Gold Smelter in Makassar, South Sulawesi, Indonesia. 2nd International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
8. Lukman A.R.L., Panigoro, C., Jahja, M. and Sakakibara, M. Transdisciplinary Study on Solving Problem of Sustainable Use of Renewable Energy in Bone Bolango Regency, Gorontalo Province: A Case Study of Isolated and Poor Community in Mongiilo Sub District. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
9. Basri, Sakakibara, M. and Ratnawati. The Economic Characteristic in Bombana Artisanal Small-Scale Gold Mining, Southeast Sulawesi, Indonesia. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
10. Tanaka, K., Sato, T. and Sakakibara, M. Co-creation of regional innovation for reducing high-impact environmental pollution by transdisciplinary approach. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
11. Kasamatsu, H., M Jahja. and Sakakibara, M. Investigation about Creation Possibility of Pearl Farming in North Gorontalo, Indonesia for the Solution to Economical Poverty and Environmental Problem. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
12. Nurfitri Abdul Gafur. and Sakakibara, M. Ability of treated kapok(*Ceibapentandra*) fiber for removal of clay particle from water turbidity. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
13. Yamazaki, S., Okazaki, K., Kurahashi, T. and Sakakibara, M. Phytoremediation of arsenic and molybdenum-contaminated alkaline wastewater by *Eleocharis acicularis* in winter in Japan. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
14. Yayu Indriati Arifin., Sakakiraba, M. and Sera, K. Heavy Metals Concentration in Scrap Hairs

of ASGM Miners and inhabitants of Gorontalo Utara Regency. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.

15. Hendra Prasetia, Sakakibara, M. and Takehara, A. Heavy metals accumulation by *Athyrium yokoscenece* in a mine area, Southwest Japan. The International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia, 2016, 09, 20-2016, 09, 22, Bandung, Indonesia.
16. 末岡裕理・榊原正幸・大藤弘明 地衣類による製錬スラグ風化過程における重金属の挙動. 日本鉱物科学会 2016 年年会・総会, 2016 年 9 月 23 日-2016 年 9 月 25 日, 金沢市.
17. 末岡裕理・榊原正幸・佐野 栄・大藤弘明・世良耕一郎 地衣類における重金属集積と土壤重金属汚染環境指標としての有効性. 第 32 回 PIXE シンポジウム, 2016 年 11 月 9 日-2016 年 11 月 11 日, 函館市.
18. Basri and Sakakibara, M. Artisanal and small-scale gold mining site of Bombana: the ore deposits type, exploration techniques, and economic potential. The 16th annual meeting of the shikoku branch of the Geological Society of Japan, 2016, 12, 03-2016, 12, 04, Nangoku City.
19. Habo, H.A., Sakakibara, M. and Sera, K. Urban medical geology of mercury pollution on traditional gold smelting in Makassar City, Indonesia. The 16th annual meeting of the shikoku branch of the Geological Society of Japan, 2016, 12, 03-2016, 12, 04, Nangoku City.
20. Nurfitri A.G., Sakakibara, M. and Sera, K. Phytoremediation of heavy metal-polluted mine drainage by *Eleocharis acicularis*. The 16th annual meeting of the shikoku branch of the Geological Society of Japan, 2016, 12, 03-2016, 12, 04, Nangoku City.

都築 伸二

社会貢献活動：

1. サイクリングアイデアソン&ハック in えひめ～サイクリングで 愛媛を盛り上げるアイデアを, みんなで考えよう～, H28. 12. 10、愛媛大学工学部 4 号館 E L 4 2 1 室, 主催：NEC ソリューションイノベーション株式会社 (2) 共催：愛媛大学 (3) 後援：四国情報通信懇談会 (4) 協力：愛媛県自転車新文化推進室 ; <https://connpass.com/event/43070/>
2. 第一次産業×ICTに関する技術セミナー, パネルディスカッション「ドローン・IoT利活用による有害生物対策とエコシステム」コーディネーター, 主催：四国情報通信懇談会 ICT 研究交流フォーラム, 平成 28 年 6 月 30 日, 愛媛大学メディアホール
3. IEEE-ISPLC2016 からの技術動向報告, PLC-J セミナー2016, 電波産業会 (ARIB)、2016 年 4 月 18 日
4. 電気学会, スマートグリッド・コミュニティのEMC問題調査専門委員会 (AEMC1039) 幹事
5. 電子情報通信学会 四国支部, 支部運営委員
6. IEEE ISPLC, TPC member
7. えひめ東予産業創造センター、入居審査専門員会委員
8. 総務省 四国総合通信局 電波監理部 電波利用環境課, 電波適正利用推進員選考会委員
9. 四国情報通信懇談会, 運営委員長

10. 四国情報通信懇談会， I C T 研究交流フォーラム 幹事

論文・研究発表：

1. 分担 (5.3.3, 5.3.4, 6.1, 6.2.1, 付録 A), スマートグリッドと EMC—電力システムの電磁環境設計技術—, 編集：一般社団法人 電気学会 スマートグリッドと EMC 調査専門委員会, 科学情報出版株式会社, ISBN: 978-4-904774-51-9, 2017/1/30
2. 都築伸二, 地域 ICT 振興型, スマート環境センシング基盤の構築と地域デザインへの応用に関する研究開発, 平成 28 年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) 研究開発成果事例集 SCOPE NOW, p.11, 総務省, 2016/10/27.
3. 水野拓輝, 日野景太, 都築伸二, 山田芳郎, 電子百葉箱用太陽電池出力の充電回路の改良試作, 平成 28 年度電気関係学会四国支部連合大会, 12-21, 徳島大学, 2016.9.17.
4. 都築伸二(愛媛大), 日野景太(愛媛大), 山田芳郎(愛媛大), 環境情報 IoT 基盤を用いた「校区のお天気」の可視化と広域化, 12-22, 平成 28 年度電気関係学会四国支部連合大会, 徳島大学, 2016.9.17.
5. 第 22 回 EMC 環境フォーラム, スマートグリッド・コミュニティに関連する EMC 問題, スマートメータ・ホームにおける電力線通信, サンシャインシティ文化会館 7 階、2016 年 9 月 8 日

岡村 未対

社会貢献活動：

1. 「Application of Geotechnical Centrifuge in Japan and development of innovative liquefaction countermeasure technique」, 2016 年 8 月, インドネシア地盤工学会, 招待講演
2. 「Damage to river levees by the 2011 Off the Pacific Coast Tohoku Earthquake and prediction of liquefaction in levees」, 2016 年 9 月, 大連国際シンポジウム 招待講演
3. 「Volumetric strain and apparent liquefaction strength」, 2016 年 9 月, 河海大学
4. 「Soil liquefaction in Kathmandu」, 2016 年 6 月, JST J-RAPID(Nepal) Symposium
5. 社会資本整備審議会道路分科会 委員 (国土交通省道路局)
6. 堤防研究会 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
7. 堤防研究会耐震 WG 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
8. 社会インフラのモニタリング技術活用推進検討委員会 河川堤防 WG 主査 (国土交通省大臣官房)
9. 河川堤防液状化対策手引き策定委員会 委員長 (国立研究開発法人 土木研究所)
10. 北上川等堤防復旧技術検討会 委員 (国土交通省東北地方整備局)
11. 緑川白川堤防調査委員会 委員 (国土交通省九州地方整備局)
12. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 委員 (国土交通省四国地方整備局)
13. 四国地方整備局 リバーカウンセラー (国土交通省四国地方整備局)
14. 松山空港地盤改良修補有識者委員会 委員 (国土交通省四国地方整備局)
15. Technical Committee 203 - Earthquake Geotechnical Engineering and Associated Problems 委員 (国際地盤工学会)
16. Technical Committee 303 - Coastal and river disaster mitigation and rehabilitation 委員会 委員

(国際地盤工学会)

17. Asian Technical Committee 3 - Geotechnology for Natural Hazards 委員 (地盤工学会)
18. 地盤工学会四国支部 支部長 (地盤工学会)
19. Asian Civil Engineering Association, Planning Committee 委員長 (アジア土木学協会連合協議会)
20. 土木学会アジア土木学協会連合協議会担当委員会 幹事 (土木学会)
21. CECA8 実行委員会 委員 (土木学会)
22. 土木学会四国支部 四国ブロック南海地震研究委員会 幹事 (土木学会)
23. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会 委員長 (土木学会)
24. 土木学会地盤工学委員会 委員 (土木学会)
25. (財)FLIP 研究会 顧問
26. Air-Des 工法研究会 顧問
27. ネパールエンジニアリングカレッジ客員教授

論文・研究発表：

1. Mitsu Okamura (2016): Application of Geotechnical Centrifuge in Japan and development of innovative liquefaction countermeasure technique, SEMINAR NASIONAL GEOTEKNIK 2016 HATTI Yogyakarta, Yogyakarta.
2. M. Okamura and R. Kasatani (2016): Slope Stability of River Levee subjecting Continued and Repeated Flooding, Proc. of the 2nd Asian Conference on Physical Modelling in Geotechnics (ASIAFUGE 2016), pp. 183-188.
3. F. Nelson and M. Okamura (2016): Thin Saturated Layer Due to Partial Drainage During Shaking Using Dynamic Centrifuge Modeling, Proc. of the 2nd Asian Conference on Physical Modelling in Geotechnics (ASIAFUGE 2016), pp. 290-295.
4. S. Yasuda, K. Fukui, S. Kunitatsu, M. Okamura, T. Kiyota, K. Koguchi (2017): REVISED SEISMIC DESIGN CODE FOR TAILINGS DAMS AND ITS APPLICATION TO EXISTING DAMS IN JAPAN, Proc. 16th World Conference on Earthquake, 16WCEE, paper No. 934.
5. F. Nelson and M. Okamura (2017): EFFECTS OF THE VOLUMETRIC STRAIN DUE TO PRE-SHAKING ON LIQUEFACTION RESISTANCE, Proc. 16th World Conference on Earthquake, 16WCEE, paper No. 3073.
6. 岡村未対, 平尾優太郎, 左橋直也(2016) : パイピングによる堤体表面形状変化の特徴, 第4回河川堤防技術シンポジウム, pp. 53-56.

森 伸一郎

社会貢献活動：

1. 2016年4月15日：2016年2月6日台湾南部地震現地調査報告：土木学会四国支部愛媛地区&地盤工学会四国支部愛媛地区：学会員
2. 2016年4月22日：2016年熊本地震の概要と特徴的な被害：愛媛大学防災情報研究センター：一般市民

3. 2016 年 6 月 20 日：2016 年熊本地震の被害の特徴と学びたい教訓：愛媛大学防災情報研究センター：一般市民
4. 2016 年 6 月 29 日：2016 年熊本地震の被害の特徴と学びたい教訓（リーダーの視点から）：愛媛経済研究会：愛媛経済研究会会員 80 名
5. 2016 年 7 月 2 日：最近の地震被害を学び南海トラフの巨大地震などに備える - 支援リーダーとして - ：愛媛県老人福祉施設協議会：老人福祉関係者 100 名
6. 2016 年 8 月 5 日：警察と防災・減災：愛媛県警察学校：愛媛県警察官 20 名
7. 2016 年 8 月 30 日：2016 年熊本地震の被害の特徴と学びたい教訓（リーダーの視点から）：高知県橋梁会：土木技術者 80 名
8. 2016 年 10 月 30 日：熊本地震の被害の実態と地域住民として学ぶべき教訓：西条市神拝公民館：神拝地区住民 40 名
9. 2016 年 11 月 8 日：2016 年熊本地震の被害の特徴と教訓：中国地方防災研究会講演：土木技術者 250 名
10. 2016 年 11 月 23 日：災害のリスクマネジメントと認知心理ー2016 年熊本地震を例にー：愛媛大学工業会：愛媛大学工業会会員 80 名
11. 2016 年 12 月 9 日：Basics of Natural Disasters, Earthquake and Tsunami Disasters：愛媛大学：JICA Malasia 10 名
12. 2016 年 12 月 17 日：南海地震に備える史料学と防災減災学の連携：史料ネット：140 名
13. 2017 年 1 月 20 日：2016 年 12 月 22-23 日糸魚川市駅北大火現地調査報告：愛媛大学防災情報研究センター：一般市民 40 名
14. 2017 年 1 月 21 日：減災カルテ講習会：西条市神拝公民館：一般市民 20 名
15. 2017 年 2 月 28 日：Earthquake Engineering：JST-JICA 愛媛大学：JST Nepalese 10 名
16. 2017 年 3 月 2 日：近年の自然災害調査から得られた教訓と災害に対する認知心理：新居浜一水会：技術者 50 名
17. 2017 年 3 月 3 日：Microtremor measurement：JST-JICA 愛媛大学：JST Nepalese 10 名
18. （社）土木学会 地盤工学委員会委員
19. （社）日本建築学会四国支部 構造委員会委員長
20. 一般社団法人 地域安全学会 理事
21. 国土交通省四国地方整備局 四国地域橋梁管理委員会 委員
22. 愛媛県 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員・同原子力安全専門部会委員
23. 愛媛県 橋梁長寿命化修繕計画評価員
24. 愛南町 愛南町防災教育連携協力協議会委員
25. 愛南町 愛南町防災教育推進懇談会委員
26. 西条市 大宮橋アドバイザー

論文・研究発表：

1. 森 伸一郎，河野 幸一，小越 拓海：愛南町における高密度地震観測によるゆれやすさ評価，平成 28 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会講演概要集，2016.

2. 西山 優輔, 森 伸一郎: 2016 年熊本地震で被害の集中した益城町での微動観測, 平成 28 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会講演概要集, 2016.
3. 梶田 恵利子, 森 伸一郎: 衛星写真による 2016 年熊本地震における西原村の家屋被害判別, 平成 28 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会講演概要集, 2016.
4. 田中 祐希, 森 伸一郎: 松山港の PC 栈橋の振動特性, 平成 28 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会講演概要集, 2016.
5. 森 伸一郎, 羽鳥 剛史, Netra Prakash Bhandary: 住民の科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の開発, 土木学会地震工学研究発表会, 2016.
6. 森 伸一郎, 安野 雄祐, 榊原 正也: 河川堤防の振動特性を考慮した耐震性評価の必要性, 日本地震工学会・大会 2016, 2016.

曲田 清維

社会貢献活動:

1. 2016.5.13: 「地方都市における公・民・学連携のまちづくりの可能性」UDC forum2016 (福島県田村市役所多目的ホール)
2. 2016.8.7: 「夏の建築学校 日土小」八幡浜市 (八幡浜市立日土小学校)
3. 伝統的建造物群保存地区保存審議会 (内子町)
4. 松山市美しい街並みと賑わい創出事業審査委員会 (松山市)
5. 銀天街 L 字地区再開発検討専門部会 (松山市)
6. 八幡浜市民会館跡地等検討委員会 (八幡浜市)
7. 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 (松山市)
8. 愛媛県住生活基本計画等策定委員会 (愛媛県)
9. 内子町景観まちづくり評価員 (内子町)
10. 松山駅周辺市街地整備検討調査等業務委託選考委員会 (松山市)
11. 愛媛県建設工事総合評価審査委員 (愛媛県)
12. 愛媛県県営住宅指定管理者候補選定審査会委員 (愛媛県)
13. 銀天街商店街周辺地区公民一体型空間形成検討業務委託選考委員会外部専門員 (松山市)
14. 伝統的建造物群保存地区保存審議会 (西予市)
15. 愛媛大学教育学部非常勤講師 (愛媛大学)
16. 2017. 1. 20 愛媛出版文化賞 部門賞・第 1 部門 (研究・評論) 「日土小学校の保存と再生」鹿島出版会

松本 啓治

社会貢献活動:

1. 道後温泉別館等選定審議会会長 (松山市)

千代田 憲子

社会貢献活動：

1. 2016.4.23：景観とサインと色彩について：みんなの看板プロジェクト：トキワバイカ*プロジェクト：宇和島市立歴史資料館：10名
2. 2016.5.28：宇和島市街歩き：みんなの看板プロジェクト：トキワバイカ*プロジェクト：宇和島市の市街地：6名
3. 景観施策アドバイザー：国土交通省四国地方整備局
4. 愛媛県景観形成アドバイザー：愛媛県
5. 愛媛県屋外広告物審議会：委員：愛媛県
6. 松山市景観審議会：委員長：松山市
7. 松山市景観賞選考部会：委員：松山市
8. 四国八十八景選定部会：委員：四国八十八景実行委員会
9. 松山アーバンデザインセンター非常勤スタッフ：プロジェクトアドバイザー：松山アーバンデザインセンター(UDCM)
10. 公益社団法人愛媛県建築士会建築甲子園委員会：委員：公益社団法人愛媛県建築士会
11. 愛媛県文化財保護審議会：委員：愛媛県
12. JA 共済小・中学校交通安全ポスターコンクール愛媛県審査会：委員長：JA 共済連愛媛
13. 愛媛広告賞：審査員：愛媛広告協会
14. 面接授業講師：放送大学

論文・研究発表：

1. 千代田憲子：沿道景観の貢献要素に関する考察-4 パブリックデザインの学習モデル：愛媛大学教育学部紀要：第 63 巻、285-293：2016・10
2. 千代田憲子：Mizuhiki Works キッサコバージョン：環のひろば ゆたか庵(松山)：h250-w400-d70cm：2016.10.21
3. 千代田憲子：陰翳'15-II：状況 2016 展：ルーチェベルデ・オープンスペース(松山)：h225-w170-d5cm：2016.11.28-12.11
4. 千代田憲子：陰翳 III：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h130-w200-d2cm：2017.3.8-3.12
5. 千代田憲子：陰翳 IV：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h180-w215-d2cm：2017.3.8-3.12
6. 千代田憲子：陰翳 V：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h240-w310-d5cm：2017.3.8-3.12
7. 千代田憲子：陰翳 VI：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h150-w350-d15cm：2017.3.8-3.12
8. 千代田憲子：陰翳 VII：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h163-w81-d2cm：2017.3.8-3.12
9. 千代田憲子：陰翳 VIII：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h177-w77-d10cm：

2017.3.8-3.12

10. 千代田憲子：陰翳 IX：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h181-w230-d10cm：2017.3.8-3.12
11. 千代田憲子：陰翳 X：讃・陰翳 千代田憲子展：愛媛県美術館特別展示室 3(松山)：h300-w181-d100cm：2017.3.8-3.12

松村 暢彦

社会貢献活動：

1. 特定非営利活動法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾，交通政策とコミュニケーション，2016.06.04
2. 全国バスマップサミット in 愛媛，愛媛の観光と交通，2016.05.14
3. 第11回日本モビリティマネジメント会議 2016.07.15-16
4. 東温市環境審議会 委員，2016.10～
5. 伊予市都市計画審議会 委員，2016.10
6. 松山市立地適正化計画策定業務委託選考委員会 外部専門員，2016.08～2017.03
7. 松山市銀天街 L 字地区再開発検討専門部会 副部会長，2015.10～2016.9
8. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 委員，2015.07～
9. 松山市環境モデル都市まつやま運営委員会 委員，2014.11～
10. 京都市学校モビリティ・マネジメント検討委員会 委員，2012.06～
11. 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団交通環境学習普及検討委員会 委員，2011.06～
12. 国土交通省エコ通勤の促進に関する表彰選考委員会 委員，2011.9～

論文・研究発表：

1. 土崎伸・松村暢彦・神田佑亮・岡本英晃・加賀有津子：多様なモビリティ・マネジメント教育プログラムの中長期的効果特性の比較分析，土木学会論文集 H，2017（印刷中）
2. 松村暢彦・近藤慎：小学校の保護者活動が社会的ネットワークの形成と生活満足度に与える影響，土木学会論文集 D3，Vol.72，No.5，I_1009-I_1016，2016
3. 南愛・松村暢彦：商店街組織活動における非公式組織の役割—奈良もちいどのセンター街「夢 CUBE」事業を事例に一，政策実践学論文集，No.1，pp.83-95，2016
4. 松村暢彦：心を動かす、日々の生活の美しさ—交通まちづくりの実践を通して—，土木学会誌，Vol.101，No.10，pp.30-31，2016 年 10 月
5. 松村暢彦：心のバリアフリー施策に関する行政職員の意識構造，日本福祉のまちづくり，2016
6. 緑の交通政策と市民参加，大阪大学出版会，2016（分担執筆）第 6 章（pp.143-158）

羽鳥 剛史

社会貢献活動：

1. 2017.3.10：「Social Psychological Approach in Civil Engineering」，Nepal Engineers' Association Talk Program，Nepal Engineers' Association（50 名）

2. 2017. 2.5 : 「八幡浜市の空き家対策を含めた新たな町づくり」, 平成 28 年度愛媛大学 COC 公開講座 in 八幡浜市『八幡浜市の空き家対策について』, 八幡浜市民会館 (100 名)
3. 2016. 10. 15 : 「これからの地域づくりの考え方」, まるごと緑 第 2 回勉強会 地域づくり講演会, 緑公民館 (50 名)
4. 2016.7.5 : 「松山の街なかの現状と最近の取り組み」, 松山まちなか空間再生トークライブ, いよてつ会館 (100 名)
5. 松山市アーバンデザインセンター副センター長
6. 松山市アーバンデザインスクール運営委員会委員
7. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験運営委員会委員長
8. 中央商店街周辺地区公民一体型空間形成検討専門部会 部会長
9. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 鉄軌道検討部会員
10. 松山市都市再生協議会 (中心市街地賑わい再生社会実験専門部会) 委員
11. 大洲市公共施設等総合管理計画検討委員会 委員
12. 大洲市総合計画審議会 副委員長
13. 西予市未来予想図円卓会議 委員
14. 西予市都市計画マスタープラン等検討委員会委員
15. 西予市都市計画マスタープラン等策定業務受託者選定委員
16. 西予市旧宇和病院跡地利用検討委員長
17. 国土交通省 社会資本整備審議会専門委員
18. 重信川流域学識者会議 委員
19. 環境省四国環境パートナーシップオフィス プラットフォーム委員
20. 南いよ風景かいどう協議会 会長
21. 四国地方整備局総合評価委員会地域小委員会委員
22. 土木学会 技術価値の国際化小委員会 幹事長
23. 土木学会「企画委員会」委員
24. 土木計画学学術小委員会 委員
25. 土木学会 土木計画学研究委員会幹事
26. 行動計量学会和文誌編集委員
27. 2016.4 : 平成 28 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞, 文部科学省

論文・研究発表 :

1. 羽鳥剛史, 佐藤桂子: 広域的放置駐輪問題を対象としたコミュニケーション施策の効果検証 : 松山市中心市街地における実践事例, 愛媛大学社会共創学部紀要, Vol.1-1, pp.43-50, 2017.
2. 二神透, 羽鳥剛史: 大学における防災士資格希望者の防災意向分析, 土木学会論文集 F6 (安全問題), Vol. 72, No. 2, p. I_15-I_20, 2016.
3. 片岡由香, 羽鳥剛史, 河内俊樹, 直井玲子: 実践まちづくり学習の意義と課題-松山アーバンデザインスクールを対象として-, 地域デザイン, No.8, pp.189-208, 2016.
4. 羽鳥剛史, 関克己, 小林潔司: 災害危機管理と意思決定構造, 土木学会論文集 D3 (土木計画学),

Vol.72, No.5, p.I_83-I_102, 2016.

5. 羽鳥剛史, 片岡由香, 尾崎誠: 市民活動の持続可能性に関する心理要因分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.72, No.5, p. I_407-I_414, 2016.
6. 片岡由香, 羽鳥剛史, 羽藤英二: まちづくり実践学習のプログラム化と地域連携への展開可能性に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.72, No.5, p. I_523-I_532, 2016.
7. 羽鳥剛史: 公的討議の規範的評価の意義と課題, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.72, No.5, p. I_21-I_39, 2016.
8. 羽鳥剛史: 洪水災害想定に関わる認知バイアスと内省機会付加型ハザードマップの効果検証, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.72, No.3, pp.231-247, 2016.
9. Kobayashi, K. and Hatori, T.: Social Capital and Regional Learning Governance: A Japanese Perspective. In: Westlund, H. & Larsson, J. P. (Eds). Handbook of Social Capital and Regional Development, pp. 445-468, E. Elgar, 2016.
10. 神原明里, 羽鳥剛史: 公共施設の統廃合に対する賛否意識の規定要因に関する研究. 土木計画学研究・講演集, Vol. 54, CD-ROM. 長崎大学: 2016 年 11 月 22 日
11. 井出野尚, 坂上貴之, 藤井聡, 唐沢かおり, 羽鳥剛史, 林幹也, 高橋英彦, 玉利祐樹, 村上始, 竹村和久: 目的から逸脱した会議の評価に関する検討, 日本社会心理学会第 57 回大会. 関西学院大学: 2016 年 9 月 18 日
12. 小川直史・片岡由香・羽鳥剛史: まちづくり担い手育成プログラムにおける学習プロセスに関する研究-松山アーバンデザインスクールの試み-. 土木計画学研究・講演集, Vol. 53, CD-ROM. 北海道大学: 2016 年 5 月 28 日
13. 青山恒佳・岡本敦也・羽鳥剛史: 公的討議における間主観性の形成過程に関わる実験検討. 土木計画学研究・講演集, Vol. 53, CD-ROM. 北海道大学: 2016 年 5 月 29 日
14. Hatori, T.: Regional Performance, Stage Setting, and Authentication in Heritage Tourism. International Seminar on Crossroads of Cultures and Firms: From the Age of Discovery to the Age of Globalization. 5, Sep. 2016. @Lisbon, Nova University
15. Hatori, T.: Metacognitive Awareness of Unexpected Risk and a Method for its Promotion. International Congress of Psychology. 2016.
16. Irwan, S., Aoyama, T., and Hatori, T.: An effect of reflective opportunities on the changes in protected value. International Congress of Psychology. 2016.

片岡 由香

社会貢献活動:

1. 2015 年 12 月～2016 年 11 月 (但し, 2016 年 4～11 月の間は産休・育児休暇中): アーバンデザインスクール (第 2 期生): UDCM: もぶるテラス: 28 名
2. 2016 年 11 月～ (但し, 2016 年 4～11 月の間は産休・育児休暇中): 道後椿の湯周辺地区景観まちづくりワークショップ: 松山市: 椿の湯 2 階: 約 15 名
3. 都市計画審議会: 委員: 松山市
4. 道後温泉活性化審議会: 委員: 松山市

5. 愛媛県国土利用計画委員会：委員：愛媛県：（2017 年～）
6. 愛媛県公共事業評価委員会：愛媛県
7. 愛媛県河川整備計画専門委員会：委員：松山市

論文・研究発表：

1. （共著）西村勝志，榊原正幸編，『社会共創学概論』，晃洋書房，平成 28 年 3 月．
2. 片岡由香，羽鳥剛史，羽藤英二「まちづくり実践学習のプログラム化と地域連携への展開可能性に関する研究」，土木学会論文集 D3, Vol.72, No.5,2016. 【査読有】
3. 羽鳥剛史,片岡由香,尾崎誠「市民活動の持続可能性に関する心理要因分析」,土木学会論文集 D3, Vol.72, No.5,2016. 【査読有】
4. 片岡由香，羽鳥剛史，河内俊樹，直井玲子「まちづくり担い手育成プログラム-松山アーバンデザインスクールの意義と課題-」，地域デザイン学会学会誌第 8 号，pp.189-208,2016. 【査読有】
5. 保持尚志,片岡由香,倉知徹,江川直樹「公的賃貸集合住宅団地の再生における駐車場設置指導の課題」，日本建築学会計画系論文集 vol.81,No.721,pp.687-693,2016. 【査読有】
6. 保持尚志,片岡由香,倉知徹,江川直樹「集合住宅団地における駐車場の需要と団地再生における駐車場整備の課題」，日本建築学会計画系論文集 vol.81,No.726,pp.1723-1731,2016. 【査読有】

小野 悠

社会貢献活動：

1. 2016.6.29：「アフリカにおけるインフォーマルな都市空間形成プロセス」第 5 回アーバンデザイン研究会（松山アーバンデザインセンター）
2. 2016.11.25：「公民学が連携するまちづくり：松山アーバンデザインセンターの取り組み」太陽エネルギー学会市民公開講座（松山市総合コミュニティセンター）
3. 2017.2.6：「UDC の具体的な活動について ～松山 UDC をケーススタディとして～」東京ミッドタウン・デザインハブ 第 63 回企画展 地域×デザイン 2017 -まちが魅えるプロジェクト（東京ミッドタウン）
4. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会・検討部会オブザーバー（松山市）
5. 中央商店街周辺地区公民一体型空間形成検討専門部会委員（松山市）
6. 松山市空家等対策協議会委員（松山市）
7. 銀天街まちなか空間活用実験実行委員会委員（松山市）

論文・研究発表：

1. 小野悠：ナイロビにおけるインフォーマル市街地の形成過程に関する研究（その 2） 宅地形成と建設プロセスに着目して，都市計画報告集, No.15, 2016
2. 小野悠：ナイロビにおけるインフォーマル市街地の形成過程に関する研究（その 1） 開発形態の特質に着目して，都市計画報告集, No.15, 2016

5. 管理・運営

5.1 運営委員会議事録

5.1.1 平成28年度 第1回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時 平成28年5月17日（火）

出席者 矢田部センター長，吉井副センター長，相引委員，松尾委員，榊原委員，
曲田委員，稲田社会連携支援部長

議題

審議事項

1 防災情報研究センター（社会基盤整備部門）兼任教員の推薦について

防災情報研究センター（社会基盤整備部門）の兼任教員として，大学院理工学研究科生産環境工学専攻，氏家 勲教授を推薦することとした。

なお，任期は，平成28年6月1日から平成30年3月31日である。

5.1.2 平成28年度 第2回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時 平成28年5月18日（水）

出席者 矢田部センター長，吉井副センター長，相引委員，松尾委員，榊原委員，
曲田委員，稲田社会連携支援部長

議題

審議事項

1 防災情報研究センター（アジア・地域防災情報ネットワーク部門）兼任教員の推薦について

防災情報研究センター（アジア・地域防災情報ネットワーク部門）の兼任教員として，大学院理工学研究科電子情報工学専攻，都築 伸二准教授を推薦することとした。

なお，任期は，平成28年6月1日から平成30年3月31日である。

5.1.3 平成28年度 第3回 防災情報研究センター運営委員会

日 時 平成28年6月9日（木）14：00～14：25

場 所 社会連携推進機構2階研修室

出席者 矢田部センター長，吉井副センター長，曲田教授，稲田社会連携支援部長

欠席者 相引教授，松尾教授，榊原教授

陪席者 塩出副課長，大野，泉

議題

協議事項

1 愛媛大学防災情報研究センター規則の一部改正について

資料1に基づき、矢田部センター長から規則第9条について、「副センター長候補者は、本学専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する」を「副センター長候補者は、本学の専任教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。」に改正したいとの説明があり、了承された。

2 副センター長の推薦について

資料2に基づき、矢田部センター長から本センター専任教員である二神透准教授を副センター長に推薦したいとの説明があり、承認された。

3 防災情報研究センター特定職員（教員）の採用について

資料3に基づき、矢田部センター長から「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業の運営のために、平成25年度・平成27年度に同事業を担当した山下祐一氏を特定教員（教授）として採用したいとの説明があり、了承された。

報告事項

1 アーバンデザイン研究部門の報告について

資料4に基づき、曲田教授から平成27年度松山アーバンセンターの多岐にわたる活動について報告があった。

また、平成28年度の活動についても、アーバンデザインスクールの継続や「みんなのひろば」が第2回まちなか広場大賞（主催：一般社団法人国土政策研究会）を受賞したこと、道後地区・L字地区・花園町通り等のまちづくりに関する活動を幅広く行っていること、情報発信としてHPやSNS、ラジオ番組、まちづくり新聞等を活用し、広く周知していることなどの報告があった。

5.1.4 平成28年度 第4回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時 平成28年6月16日（木）

出席者 矢田部センター長、吉井副センター長、相引委員、松尾委員、榊原委員、
曲田委員、稲田社会連携支援部長

議題

審議事項

1 防災情報研究センター客員研究員の受け入れについて

アーバンデザイン研究部門における市街地再開発事業及び研究を行うために社会実験の調査に関する研究を行うために、浅子 佳英氏を客員研究員として受け入れることとした。

なお、受入期間は、社会連携推進会議承認日～平成 30 年 3 月 31 日の予定とする。

5.1.5 平成 28 年度 第 5 回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時 平成 28 年 7 月 11 日（月）

出席者 矢田部センター長，吉井副センター長，相引委員，松尾委員，榊原委員，
曲田委員，稲田社会連携支援部長

議題

審議事項

1 防災情報研究センター非常勤講師の委嘱について

防災情報研究センター非常勤講師に、(株)第一コンサルタンツ取締役技術開発部 部長 楠本 雅博氏を委嘱することとした。

なお、委嘱期間は、平成 28 年 8 月 1 日から平成 29 年 2 月 28 日である。

5.1.6 平成 28 年度 第 6 回 防災情報研究センター運営委員会

日 時 平成 29 年 1 月 19 日（木）10：00～10：45

場 所 愛媛大学校友会館 2 階 ミーティングルーム

出席者 矢田部センター長，吉井副センター長，二神副センター長，松尾教授，
曲田教授

欠席者 相引教授，榊原教授，稲田社会連携支援部長

陪席者 山下教授（特定教員），塩出，大野，泉

協議事項

1 防災情報研究センター研究部門「防災・橋梁メンテナンス技術研究部門」の設置について

矢田部センター長から資料 1 に基づき説明があり，防災情報研究センターの研究部門として，「防災・橋梁メンテナンス技術研究部門」を（株）第一コンサルタンツ及び（株）高知丸高からの寄附研究部門として設置することが承認された。

なお，設置に伴う防災情報研究センター規則の一部改正についても了承された。

2 副センター長の推薦について

矢田部センター長から資料 2 に基づき，本センター兼任教員であるネトラプラカシュバンダリ准教授を副センター長に推薦したい旨説明があり，承認された。

3 特定職員（教員）の退職について

矢田部センター長から資料 3 に基づき説明があり，文部科学省からの受託事業「社会基盤メンテナ

ンスエキスパート（ME）養成講座」で採用した山下教授の平成29年2月末日での退職について、了承された。

4 特定職員（教員）の採用について

矢田部センター長から資料4に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

なお、任期は平成29年4月1日から平成30年3月31日までとし、社会連携推進会議の議を経て、全学人事委員会で承認を得れば、採用の手続きを行うこととした。

5 客員教授等の称号付与（更新）について

矢田部センター長から資料5に基づき、平成28年度の客員教授5名、客員准教授1名の活動実績等の説明があり、称号付与について承認された。

6 客員教授等の称号付与（新規）について

矢田部センター長から資料6に基づき、4名の推薦理由書等の説明があり、称号付与について承認された。

7 平成28年度外部評価委員会について

矢田部センター長から資料7に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

8 防災情報研究センター部局個人評価実施要綱の一部改正について

矢田部センター長から資料8に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

9 平成29年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」について

二神副センター長から資料9に基づき説明があり、平成29年度は土日型2回、平日型1回の防災士養成講座を松山市消防局の協力の下、実施することが了承された。

10 防災情報研究センター研究部門「アーバンデザイン研究部門」の継続について

矢田部センター長から、平成26年度から3年間設置が認められている寄附研究部門（アーバンデザイン研究部門）の継続について、松山市より申し出があった旨説明があり、審議の結果、来年度も継続することが承認された。

なお、現在来年度予算の市長査定中であり、内示後すみやかに事務手続きをすることとした。

報告事項

1 平成28年度社会基盤メンテナンスエキスパート実施報告

山下教授から資料10に基づき、今年度実施した社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座の実施報告があった。

5.2 外部評価委員会議事録

5.2.1 平成 28 年度防災情報研究センター外部評価委員会

日 時：平成 29 年 3 月 21 日（火）14：00～15：00

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

委員出席者：

（株）いよぎん地域経済研究センター代表取締役	重松 栄治
南海放送（株）営業局チームマネージャー兼文化事業部長	白石 享三
（株）芙蓉コンサルタント	須賀 幸一
放送大学愛媛学習センター所長	村上 研二

陪 席 者：

矢田部センター長，相引教授，松尾教授，榊原教授，曲田教授，稲田社会連携支援部長
塩出 T L，大野，泉，水野

矢田部センター長のあいさつの後，愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要領第 4 条第 1 項に基づき，村上研二放送大学愛媛学習センター長を委員長（議長）に選出した。

審議事項

議題 1. センター活動の概要報告

矢田部防災情報研究センター長から資料 3 に基づき，曲田部門長から資料 4 に基づき平成 28 年度の活動報告等があった。

議題 2. 受託研究・共同研究に対する概要

矢田部防災情報研究センター長等から資料 5 に基づき，受託研究，共同研究 12 件の説明があった。全委員から特段の指摘はなく，防災情報研究センターとして，ふさわしい研究であるとの評価をいただいた。

議題 3. センター活動への助言について

重松委員から，熊本地震時にはトイレが不便だったり，緊急物資がたまってしまって腐ってしまったような事例があった。防災情報研究センターとして最新の ICT 等を活用して，お年寄りの方でも活用できるようなハード面とソフト面の開発は進んでいるのかと質問があり，矢田部センター長から，研究として歴史が浅く，行政・ボランティアを含めてまだ技量不足である。将来的には愛媛県等とタイアップしてデータベースを作り上げたいという意識はあるとの回答を行った。

白石委員から，南海トラフ地震に備えるには，多くの人に理解していただくことが重要であり，教育の現場で何かしら定期的に授業をするとかのカリキュラムの構築が必要である。学校の先生の防災に関する知識も初歩レベルであり，是非，小・中学校の地域の拠点へ啓蒙活動していただきたいと依頼があ

り、矢田部センター長から、昨年度には各自治体の協力を得て、愛媛県下20市町すべてにおいて防災教育を実施した。また、ネパール国全国の義務教育課程に防災教育カリキュラムを導入する計画があるとの回答を行った。

須賀委員から、アーバンデザイン研究部門は非常に活発に活動している。まちづくりを実践的に学ぶことで、将来のまちづくりの担い手を育成していることがよく理解できた。アーバンデザインスクールは学生が中心であると思うが、構成を教えて欲しいとの質問があり、曲田部門長から、いろいろな階層の方に参画していただいているが、大学生が7割、残りが社会人・行政・一般の方という構成である。社会人のプロジェクトの一例として「椿のおもてなしプロジェクト」があるが、これは商品開発事業も並行して進めており、外部発注による商品の製作、販路の獲得、販売体制等の検討も行っているとの説明があった。

村上委員から、アーバンデザイン研究部門の活動状況からして、防災情報研究センターの一部門としては違和感がある。将来は独立する計画はあるのかとの質問があり、矢田部センター長から、アーバンデザイン研究は重要な研究課題である。しかし、センターとして独立して研究を進めていくためには少し経済基盤が弱い。現時点では松山市からの寄附講座としてのみ運営しており、大学の中に独立したセンター設置するのは難しい。ただ、中心市街地の防災問題も非常に重要なので、アーバンデザイン研究部門の中にも防災を含めた市街地のデザイン設計を検討していく必要性があり、防災まちづくりの研究も進める予定であるとの説明があった。

最後に矢田部センター長から、各委員に対して委員会出席の謝辞が述べられ、外部評価委員会は終了した。

6. 規程等

6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

平成18年4月1日
規則第 64 号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

(研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) 社会基盤整備部門
- (4) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (5) 東南海・南海地震研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学社会連携推進機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから管理委員会が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第9条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門長）

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

（寄附研究部門教員）

第11条 寄附研究部門教員は、管理委員会が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（協力教員）

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

（客員教授等）

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、愛媛大学客員教授等選考基準の定めるところによる。

（客員研究員）

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（事務）

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附 則

この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

附 則

この規則は、平成２２年１０月１４日から施行し、平成２２年１０月１日から適用する。

6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

平成18年4月1日
規則第 65 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附 則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附 則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

(評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。

2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

(審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。

2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

(審査の時期)

第5条 審査は、原則として、年度ごとの定期審査とする。

2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

(審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあたらなければならない。

(事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
- (2) 民間機関の有識者 2人
- (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者

2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。

3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

附 則

1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。

2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

